

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目							
科目名	アナウンスメントの基礎A／アナウンスメントの基礎							
担当教員	永岡 俊哉					科目ナンバー	J7209A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	将来、アナウンサーやリポーターなど、マイクの前で仕事をしたい人がアナウンスメント能力の基礎を習得する。							
授業の概要	正しい呼吸で発声することを確実に身につけることを第一目標に繰り返ししゃべる。 音→単語→文節→文→文章と、少しずつ長いアナウンスができるようにする。 講座の最終目標は、簡単なニュースや天気予報などが読めるようになることである。 アナウンサー志望者のみならず、CAや営業職など人前でしゃべる仕事をを目指す学生に、楽しく学んでもらいたい。							
到達目標	人前でしっかり声を出してアナウンスする。（恥ずかしさなどの抵抗感を排除できるようになる。） 正しい呼吸、発声、発音、滑舌、共通語について理解し、その知識を身につける。【知識・理解】 正しい呼吸、発声、発音、滑舌で共通語のアナウンスができ、さらに自己紹介や短いプレゼンテーションができるようになる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 オリエンテーション：各自の自己紹介 各自の目標設定 第2回 レベルチェック：呼吸、発声、発音、アクセント、読みの力を確認し、個々の目標を設定 第3回 呼吸練習：腹式呼吸のやり方を習得 第4回 発声練習：発声の仕組み、正しい母音の発声 第5回 発声練習：発声の仕組み、正しい子音の発声（母音の復習も行う） 第6回 発声練習：鼻濁音、無声音 第7回 発声練習：滑舌練習、アクセント 第8回 発声練習：鼻濁音、無声音、滑舌練習、アクセントの総まとめ 第9回 中間チェック：これまでの授業内容がどの程度身についているかをチェックする 第10回 文章を読む：単語や文節からレベルアップして、文章を読む 第11回 ニュースと天気予報、CMを読む「事故のニュース、火事のニュース」 第12回 ニュースと天気予報、CMを読む「簡単な天気変化の仕組みと天気予報文」 第13回 ニュースと天気予報、CMを読む「スポーツニュース、政治ニュース」 第14回 ニュースと天気予報、CMを読む「コマーシャル」「提供読み」 第15回 「ニュース、天気予報」等のカメラ収録の実践、実技試験 （受講者の数やレベル、進み具合によって内容が少し変わったり、前後することがある。）							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	アナウンスの練習は週1回の授業では全く足りないので、毎日各自でやってこそ、技量の向上につながる。そこで、以下の事前、事後学習を求める。 授業前準備学習：各回の授業項目について予習し、教科書の該当箇所について、参考書や辞書で下調べをしながら各自で声を出し読んでみる。ただし、わからない時には勝手に進めずに、講師に確認する事。（間違ったアナウンスを覚えたり、喉を傷めたくないため）【学習時間：2時間】 授業後学習：授業で行ったアナウンスを何度も声を出してやってみると共に、授業内容と同じ項目に該当する教科書以外の教材（講師より案内する）でアナウンス練習をすることで、さらに習熟を深める。【学習時間：2時間】							
授業方法	とにかく正しい方法で声を出し、正しい方法でしゃべることが基本となる。 各自がアナウンサーになったつもりで、積極的に考え、しゃべること。							
評価基準と評価方法	実技試験のカメラ収録の内容：60%、 普段の取り組みや課題への取り組みの評価：40% なお、遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と実技試験を受けなければ単位は認定しない。							
履修上の注意	ストップウォッチは100円ショップの品でいいので各自用意する事。 アクセント辞典、ICレコーダー（スマホでも可）も持っていることが望ましい。 アナウンサー受験等を考えている学生には別途アドバイス等を行う。							
教科書	テレビ朝日アスクアナウンス教則本（1冊2,500円）は必携のこと。購入方法は別途案内する（書店では販売されていないので、講師が教室で案内する。）							
参考書	NHKアナウンスセミナー、アクセント辞典							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	アナウンスメントの基礎B／プレゼンテーションの基礎						
担当教員	永岡 俊哉					科目ナンバー	J7209B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	アナウンス基礎力の確認と、少しレベルアップしたアナウンス能力の習得						
授業の概要	前期の基礎Aで身に着けたアナウンス技法をさらにブラッシュアップすべく、やや難易度を上げたアナウンスメントの学習を実践的に行う。その後、現場リポート、フリートークなどを通して、自分で考え自分でしゃべる力を養う。 アナウンサー、リポーター等を目指す学生はもちろん、人前でしゃべることが必要なCAや営業職を目指す学生にも受講してもらいたい。						
到達目標	人前で的確に話し、ひいてはアナウンサー、リポーター、CA等になるための基礎力を固めるために、アナウンス基礎Aでの学びを基に、2つの到達目標を掲げる。 正しい呼吸、発声、発音、滑舌、共通語について理解し、その知識をを身につける。【知識・理解】 正しい呼吸、発声、発音、滑舌で共通語のアナウンスができ、さらに自己紹介や短いプレゼンテーション、フリートークができるようになる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 アナウンス基礎Aのおさらい、確認と、どの程度アナウンスできるかの個人別チェック 第2回 発声、滑舌、アクセント等の基礎力のブラッシュアップ 第3回 ニュースの原稿読み 第4回 ニュース、スポーツニュースの原稿読み 第5回 天気予報、コマーシャルの原稿読み 第6回 ニュース、スポーツニュース、天気予報、コマーシャルの通し読み 原稿読みのカメラ撮影を行い、実技試験とする（カメラ収録、評価対象） 第7回 フリートークその1「現場リポート」 第8回 フリートークその2「実況」 第9回 フリートークその3「対談」 第10回 外郎売りその1「外郎売りの意味を知り、聞いてみる」 第11回 外郎売りその2「外郎売りを実際に声に出して読む＝実演する」 第12回 ナレーションその1「番組宣伝のナレーション」 第13回 ナレーションその2「ドキュメンタリー番組のナレーション」 第14回 生コマーシャルその1「原稿を読んで実演する」 第15回 生コマーシャルその2「自分で原稿を作成して実演する」 生コマーシャルのカメラ撮影を行い、実技試験とする（カメラ収録、評価対象） （受講者の数やレベル、進み具合によって内容が少し変わったり、前後することがある。）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	アナウンスの練習は週1回の授業では全く足りないので、毎日各自でやってこそ、技量の向上につながる。そこで、以下の事前、事後学習を求める。 授業前準備学習：各回の授業項目について予習し、教科書の該当箇所について、参考書や辞書で下調べをしながら各自で声を出し読んでみる。ただし、わからない時には勝手に進めずに、講師に確認する事。（間違ったアナウンスを覚えたり、喉を傷めたくないため）【学習時間：2時間】 授業後学習：授業で行ったアナウンスを何度も声を出してやってみると共に、授業内容と同じ項目に該当する教科書以外の教材（講師より案内する）でアナウンス練習をすることで、さらに習熟を深める。【学習時間：2時間】						
授業方法	演習（実践）形式、各自がアナウンサーになったつもりで、積極的に考え、しゃべること。						
評価基準と評価方法	実技2回のカメラ収録の内容：60%、 リポート原稿をミニレポートとして評価：40% なお、遅刻は2回で欠席1回と同等の扱いとし、10回以上の出席と実技試験の受験がなければ、単位は認定しない。						
履修上の注意	ストップウォッチは100円ショップの品でいいので各自用意する事。 アクセント辞典、ICレコーダー（スマホでも可）も持っていることが望ましい。 アナウンサー受験等を考えている学生には別途アドバイス等を行う。						
教科書	テレビ朝日アスクアナウンス教則本（1冊2,500円）は必携のこと。購入方法は別途案内する（書店では販売されていないので、講師が教室で案内する。）なお、アナウンスメント基礎Aで購入した者は購入の必要はない。						

参考書	NHKアナウンスセミナー、アクセント辞典
-----	----------------------

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバー	J73250
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	就職活動や卒業論文の執筆を視野に入れた実践的な文章表現能力の養成						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および、就職活動や社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行ないます。必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、自分が伝えたいことを相手から明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できる 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につける 3. 日常で使う言葉や文章、仕事等で使う文章、レポートや論文などアカデミックな文章の違いを理解できる 4. 日常生活、就職活動や社会に出て働くに際して、適切な文章を書くことができる 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くスキルを身につける						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義内で小説・エッセイ・学術書などの本を紹介するのでそれらを参照しつつ、興味のある本や素敵な文章をたくさん見つけて、ノートやパソコンで書き写す試みをしてください。図書館の活用方法や、良い文章に触れるコツにも言及しますので、授業外の学習に生かしてください。準備学習時間の目安は120分です。						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で学習してもらいます。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポートの執筆への実践的な取り組み、受講生の皆さんでの意見交換をしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習へ取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。評価基準と テストおよび最終レポート50%、授業内課題30%、授業参加態度20%。最終レポートは授業参加度に比例した成果が出ますので、その点を意識して授業を受けてください。						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません。（正式な理由があつての欠席は必ず事前に担当教員と教務課に届け出ること。特にテストの欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。）授業をさまたげる私語やスマホの利用は厳禁です。初回のガイダンスにて履修上の注意点を述べるので、履修予定者は必ず出席してください。						
教科書	本授業は基本的にパワーポイントを用いた説明を行いますので、必ず各自でノートをまとめるようにしてください。また、必要に応じてレジュメを配布します。						
参考書	戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで』NHK出版、2002；〔新版〕2012（ISBN-10：4140911948/ISBN-13：978-4140911945）他の参考書は授業内で指示します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	応用文章表現法A						
担当教員	大貫 菜穂					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	就職活動や卒業論文の執筆を視野に入れた実践的な文章表現能力の養成						
授業の概要	本授業は、レポートや卒業論文の執筆および、就職活動や社会に出た際に求められる文章の書きかたを身につけるものです。各回では、まず、多様なシチュエーションや媒体に適した文章のルールやマナーを知り、なぜ、それらに沿った表現が必要なのかについて理解を深めます。そのうえで、お手本となる文章の要旨をまとめることや、より実践的な文章の執筆も行ないます。必要に応じてペアワークやグループワークにも取り組んでもらいます。						
到達目標	さまざまな文章を正確に把握することを通じて日本語の構造や表現を学び、自分が伝えたいことを相手から明確に理解してもらえる文章を書けることが到達目標です。そのために次のことを達成します。 1. なぜ、文章を正しく読み解くことと的確な表現で書く技術が必要なのかを理解できる 2. 日本語文の品詞、文章構造、文体、語彙、表現を身につける 3. 日常で使う言葉や文章、仕事等で使う文章、レポートや論文などアカデミックな文章の違いを理解できる 4. 日常生活、就職活動や社会に出て働くに際して、適切な文章を書くことができる 5. アカデミックな文章を正しい書式で書くスキルを身につける						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 手紙と葉書の書きかた 第3回 メールのマナーと作成方法 第4回 報告書の書きかた 第5回 振り返り・小テスト① 第6回 レポートや論文の書き方① 多様な文章の種類とアカデミックな文章とは何かを知る 第7回 レポートや論文の書き方② テーマの見つけかたと問いの提示方法 第8回 レポートや論文の書き方③ アカデミックな文章を書く際の資料検索方法 第9回 レポートや論文の書き方④ アカデミックな文章の構成方法 第10回 レポートや論文の書き方⑤ アカデミックな文章の表現作法 第11回 レポートや論文の書き方⑥ アカデミックな文章における引用・註・文献表・図版の用いかたと注意点 第12回 振り返り・小テスト② 第13回 レポートの作成① テーマを実際に決めて問いをつくる 第14回 レポートの作成② 構成を考える 第15回 レポートの推敲と修正、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	講義内で小説・エッセイ・学術書などの本を紹介するのでそれらを参照しつつ、興味のある本や素敵な文章をたくさん見つけて、ノートやパソコンで書き写す試みをしてください。図書館の活用方法や、良い文章に触れるコツにも言及しますので、授業外の学習に生かしてください。準備学習時間の目安は120分です。						
授業方法	基本は授業計画に沿った内容を講義形式で学習してもらいます。そのうえで、実際に文章を執筆・作成する回もあります。また、文章を配布し、文章内の言葉や構造・内容の把握、要旨や要約およびレポートの執筆への実践的な取り組み、受講生の皆さんでの意見交換をしてもらいます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業参加、学習へ取り組む態度、小テストおよび最終レポートの総合評価とします。評価基準と テストおよび最終レポート50%、授業内課題30%、授業参加態度20%。最終レポートは授業参加度に比例した成果が出ますので、その点を意識して授業を受けてください。						
履修上の注意	5分の1以上の授業の欠席、テストの欠席および最終レポートを提出しなかった場合は、最終評価の対象としません。（正式な理由があつての欠席は必ず事前に担当教員と教務課に届け出ること。特にテストの欠席は、教務課からの届けをもって再テストまたは別の課題等を指示します。）授業をさまたげる私語やスマホの利用は厳禁です。初回のガイダンスにて履修上の注意点を述べるので、履修予定者は必ず出席してください。						
教科書	本授業は基本的にパワーポイントを用いた説明を行いますので、必ず各自でノートをまとめるようにしてください。また、必要に応じてレジュメを配布します。						
参考書	戸田山和久『論文の教室——レポートから卒論まで』NHK出版、2002；〔新版〕2012（ISBN-10：4140911948/ISBN-13：978-4140911945）他の参考書は授業内で指示します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	音韻・表記の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦				科目ナンバー	J72010	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学、音韻論、表記論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を示したのち、音声に象徴性が備わっていることを教授する。						
到達目標	(1) 音声、音素、文字の関係を掴む。 (2) 音声に象徴性が備わっていることを知る。 (3) 科学的分析方法を知る。 (4) 学説が必ずしも定まっていないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 音声とその象徴性 03: 国際音声字母 (The International Phonetic Alphabet = IPA) の理解 04: IPA作文 05: 「1. 「マル」と「ミル」はどちらが大きい？」の購読 06: 「2. 「あかさたな」とサンスクリット研究」の購読 07: 「3. 世界中のことばを記録する方法」の購読 08: 「4. 音を目で見る」の購読 09: 「5. 声紋分析官への道」の購読 10: 「6. ないはずの音が聞こえる日本人」の購読 11: 日本語を書き記すための文字 12: 日本語の表記法 13: 書字方向の歴史 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	(1) 教科書熟読: 各章少なくとも2時間は要する。 (2) 論文読解: 15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 購読資料作成: 少なくとも4時間は要する。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義。板書を積極的に活用する。授業内課題を毎回与え、学生から得た正答や名案を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の課題: 40点 試験: 60点						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川原 繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界』、岩波書店						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 屋名池 誠 (2003) 『横書き登場: 日本語表記の近代』(岩波新書 [新赤版] 863)、岩波書店 斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』、三省堂						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	海外日本語教育実習						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J72240
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	海外日本語教育実習						
授業の概要	この授業は、実際に、海外の協定大学の日本語学科で日本語教育の教壇実習を行う授業です。日本語教育は実際に教えるという体験が非常に重要です。この経験を通して、クラスコントロールなど現場でしか学べないことを学びます。この授業は8回の学内での授業と1・2週間の海外の教育実習に分かれています。人数制限や実習費用がかかるため、必ず1回目の授業に出席することを条件とします。						
到達目標	① 指定されたテキストを分析し、教えるべき文型や注意点が理解できる。【知識・理解】 ② テキストを分析し、対象者のレベルにあった教案を作るスキルを身につけることができ？。【汎用的技能】 ③ 教室において柔軟に意欲的に行動し、海外で日本語教師として教壇に立ち授業を行うことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 実習指導1・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導2・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導3・教案指導の書き方 第5回 実習指導4・教案指導を書く 第6回 実践練習 海外教育実習（見学と実習 45時間以上） 第7回 フィードバック 第8回 まとめと振り返り						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業の為の教材作を積極的に行うこと。 事前に自分の担当箇所の教案とPPTを作成（学習時間120分） 授業の準備とリハーサル（学習時間120分）						
授業方法	講義形式＋プレゼンテーション＋海外の協定大学における日本語教壇実習						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 教壇実習40% 教案・実習レポート10%						
履修上の注意	・希望者多数場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 ・「日本語教育演習A・B」あるいは「日本語教育実習の基礎・実践」を履修している人を優先する。 ・単位認定には実際の教壇実習へ行くことが必須である。 ・事前授業に全部出席すること。 ・海外での教育実習のための費用が必要である。 ・集中講義であるため、すべての授業に出ることを条件とする。						
教科書	適宜、教師が作成したプリントを使用						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	華道文化を学ぶ／華道史						
担当教員	今井 孝司					科目ナンバー	J72510
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	1. いけばなを通して日本文化の根底に流れるもの・ことを知る 2. 現代社会におけるいけばなの可能性について考える						
授業の概要	いけばなは日本の風土、文化、精神から発生した、日々の生活に密着しながら発展してきた「生活芸術」です。まずその起源を知り、いけばなが日本人の日常生活の中で様式化されていった過程について理解します。次に現代に蔓延するストレスフルな生活に潤いを与える可能性についてひもといていきます。またいけばなが西洋あるいは戦前の植民地に与えた影響と、高齢社会における可能性についても言及する予定です。						
到達目標	まずいけばなの成立背景と変遷の過程について、日本の風土や信仰が大きく作用していることを理解し、住空間の発展、もてなしの文化、女性の生活芸術であったなどの知識を身につけ、説明ができることを第一の目標とします。さらに応用力として、いけばなは民族・文化を越えて現代人の生活に潤いをもたせ、未来志向の生活芸術であるという可能性を理解し説明できる汎用的技能を身につけるところまでを視野に入れた授業を行います。						
授業計画	第1回：いけばな・日本の歴史文化に関するクイズと授業方針の伝達 第2回：いけばな史① いけばな成立の背景 『いけばなの道』DVDの視聴 第3回：いけばな史② 古代から江戸期まで 植生・信仰・住環境との関連性を中心に 第4回：いけばな史③ 明治期から現代まで 社会文化・経済との関連性を中心に 第5回：いけばな史④ 女性といけばな 江戸期と大正期の変節点を中心に 第6回：様式の成立背景と技法の進化① カミ（神）とブツ（仏）の影響 第7回：様式の成立背景と技法の進化② なぜ花は空に向かって活けるのか 第8回：現代生活といけばな① 花の持つ力（パワー）と効用…色・形・匂い 第9回：現代生活といけばな② 住環境のアクセントとしてのいけばな 第10回：現代生活といけばな③ 和のテイスト、洋のテイスト、癒しとしてのいけばな 第11回：家元制度について考える 第12回：いけばなと外国との関わり① いけばなに魅せられた西洋人たち 第13回：いけばなと外国との関わり② 戦前日本のアジア展開といけばなの伝播過程 第14回：高齢社会といけばな 生活のうるおいと活力をもたせるいけばな 第15回：総括および提出物評価						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	○本授業の開講期にあたる秋には多くのいけばな流派の花展が開催されます。どの流派でもかまわないので、必ず会場に足を運び、与えられたタイトルでレポートを仕上げ、提出してください。これに要する時間はおおむね6時間（スケッチ・メモを含む花展見学2時間、レポート作成4時間）を目安とします。 ○また下記参考書以外に、授業内で複数指定する書籍から一冊を選定しレポートを提出していただきます。これに要する時間はおおむね12時間（読書時間・レポート作成時間合計）を目安とします。						
授業方法	基本は講義（座学）ですが、過去または現代の作品（プロジェクター掲示や写真の配布など）について、ディスカッションも予定しています。						
評価基準と評価方法	レポート（2回）50% 平常点①：授業内容確認テスト（2回）30% 平常点②：ディスカッションでの発言、受講態度など講義への参加度20%						
履修上の注意	いけばな経験の有無は問いません						
教科書	特に指定はしません。適宜レジュメを配布します						
参考書	『いけばなの道』工藤昌伸、主婦の友社、1985年 『「花」の成立と展開』小林善帆、和泉書院、2007年 『美しい日本のいけばな』ジョサイア・コンドル（工藤恭子訳）、講談社、1999年 『植民地朝鮮の教育資料Ⅰ・Ⅱ』小林善帆編、国際日本文化教育センター（非売品・図書館所蔵） その他いけばなに関する論文、雑誌記事など						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の応用／書道実技（仮名B）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ－	J72450
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名―応用編〉						
授業の概要	書道実技（仮名A）基礎の応用として、様々な書式を試みる。 俳句、和歌の散らし書き構成法を学び、短冊、色紙、扇面などへの創作に挑戦する。 創作の際、参考にする古典作品（古筆）を各自が選び、研究する。						
到達目標	①さまざまな仮名の古典作品の書風や歴史について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②仮名の散らし書きを学び、色紙、短冊、扇面などに俳句、和歌を創作することができる。【知識・理解】						
授業計画	1) 古筆の鑑賞―学ぶ古筆を選ぶ 2) 古筆の臨書―練習 3) 古筆の臨書―清書 4) 短冊に書く①―集字について 5) 短冊に書く②―短冊の書式について 6) 短冊に書く③―墨量と濃淡について 7) 色紙に書く①―散らし書きについて（構図を考える） 8) 色紙に書く②―散らし書きについて（墨量を考える） 9) 扇面に書く①―扇面と散らし書きについて（構図を考える） 10) 扇面に書く②―扇面と散らし書きについて（墨量を考える） 11) 中字仮名を書く①（構図を考える） 12) 中字仮名を書く②（墨量を考える） 13) 中字仮名を書く③（清書）、大字仮名を書く①（構図を考える） 14) 大字仮名を書く②（墨量を考える） 15) 大字仮名を書く③（清書）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な学習を希望する。（学習時間：90分） 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：作品制作への取り組み態度 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認のため毎時の提出作品						
履修上の注意	以下の書道道具を持参のこと：仮名用小筆、硯、墨、文鎮、下敷き、仮名半紙、雑巾 （書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する） 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	各自が選ぶ古筆の法帖。詳しくは最初の授業で説明する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	仮名書法の基礎／書道実技（仮名A）						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J72440
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	書道実技〈仮名—基礎編〉						
授業の概要	仮名は、中国から漢字を受容し、日本独自の美意識のもと展開された。仮名の変遷を理解し、主に平安時代の仮名について学習する。単体から連綿、仮名の書き方の基本を学びながら、日本の美について考える。						
到達目標	①仮名の成立について理解し、説明することができる。【知識・理解】 ②仮名の書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、仮名の変遷と仮名の書について 2) 仮名の基本練習—単体で書く 1…仮名の字源について、仮名の用筆 3) 2…「いろは」練習 4) 3…「いろは」清書 5) 仮名の基本練習—連綿で書く 1…連綿の種類について、連綿の練習 6) 2…連綿の清書 7) 仮名の基本練習—変体仮名を書く 1…変体仮名の字源について、変体仮名の練習 8) 2…変体仮名の練習と清書 9) 仮名の古典作品（古筆）について、古筆の臨書—「高野切古今和歌集」練習 10) 古筆の臨書—「高野切古今和歌集」清書 11) 古筆の臨書—「三色紙」練習 12) 古筆の臨書—「三色紙」清書 13) 仮名作品の創作①—構図と墨量を考える 14) 仮名作品の創作②—料紙に清書 15) 仮名作品の創作③—作品に合う印の制作と押印						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復讐 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量では限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：作品制作への取り組み態度 レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認のため毎時の提出作品						
履修上の注意	以下の書道道具を持参のこと：仮名用小筆、硯、墨、文鎮、下敷き、仮名半紙、雑巾 （書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する） 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	手本やプリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文講読／漢文を読むA						
担当教員	恵阪 友紀子					科目ナンバー	J72230
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を身につけ、漢詩文を鑑賞する						
授業の概要	日本文学は中国文学からさまざまな影響を受けている。日本文学を読み解く上でも欠かせない漢文学の歴史と日本文学の関わりについて解説する。また、作品を読みながら漢詩文の読解に必要な基礎知識を習得できるようにする。						
到達目標	(1) 漢詩文読解ができる【知識・理解】 (2) 中学・高校でよく取り上げられる作品を自力で理解できる【汎用的技能】 (1) 漢詩文読解ができる (2) 作品の内容を理解できる (3) 日本文学と漢文学の影響関係が説明できる						
授業計画	第1回 ガイダンス 漢文の基礎の復習 第2回 漢文訓読の基礎知識 (1) 訓点・基本構文の確認 第3回 漢文訓読の基礎知識 (2) 助字解説 第4回 漢文講読の基礎知識 (3) 構文解説 第5回 作品読解 (1) 故事成語① 螢窗雪案 第6回 作品読解 (2) 故事成語② 推敲 第7回 作品解説 (3) 論語 (学而篇) 第8回 作品解説 (4) 論語 (為政篇) 第9回 作品読解 (5) 漢詩① 漢詩の基礎知識の復習 第10回 作品読解 (6) 漢詩② 古体詩と近体詩 (古詩十九首、山中問答) 第11回 作品読解 (7) 漢詩③ 唐詩と日本文学 第12回 作品読解 (8) 漢文① 桃花源記 (訓読) 第13回 作品読解 (9) 漢文② 桃花源記 (読解) 第14回 作品読解 (10) 漢文③ 桃花源記 (作品解説) 第15回 まとめと試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備：次回範囲の作品を書き下し文にし、読めない漢字や意味の不確かな語は調べておくこと (1時間) 授業後復習：構文の確認、授業内で示す課題に取り組むこと (1時間)						
授業方法	講義：書き下し文の板書、本文音読、通釈の発表など双方向で進め、重要事項・構文名などの解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 60% 期末試験 40% 授業内での提出物： ①リアクションペーパー (講義のまとめ、質問感想) の内容を評価する【到達目標 (1) (2) の確認】 ②課題 (全回の課題) の内容を評価する【到達目標 (1) (2) の確認】 期末試験：授業で扱った作品や応用問題に対する理解度、応用力を評価する【到達目標 (1) (2) の確認】 課題に対するフィードバック リアクションペーパーに対するコメント・質問への回答は翌週に解説する						
履修上の注意	必ず漢和辞書を持参すること (電子辞書および有料の辞書アプリは可。語例や語義が詳述されているものに限る。よって、無料アプリおよびネット上の簡易辞書は不可) 積極的に授業に参加すること						
教科書	『漢文入門』、榊原邦彦・伊藤一重ほか篇、和泉書院、ISBN9784870885196						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	漢文入門						
担当教員	恵阪 友紀子					科目ナンバー	J71530
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	漢文読解の基礎知識を身につける						
授業の概要	日本文学は中国文学からさまざまな影響を受けている。日本文学を読み解く上でも欠かせない漢文学の歴史と日本文学の関わりについて解説する。また、作品を読みながら漢詩文の読解に必要な基礎知識を習得できるようにする。						
到達目標	(1) 漢詩文読解ができる【知識・理解】 (2) 中学・高校でよく取り上げられる作品を自力で理解できる【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 漢字の基礎 第2回 漢文訓読の基礎知識 (1) 訓点 第3回 漢文訓読の基礎知識 (2) 基本構文 第4回 漢文訓読の基礎知識 (3) 再読文字 第5回 漢文訓読の基礎知識 (4) 助字と助詞 第6回 漢文訓読の基礎知識 (5) 助字と助動詞 第7回 作品読解 (1) 故事成語① 守株 第8回 作品読解 (2) 故事成語② 矛盾 第9回 作品読解 (3) 故事成語③ 漱石枕流 第10回 作品読解 (4) 論語① 学問 (学而) 第11回 作品読解 (5) 論語② 教育・徳 (為政篇) 第12回 作品読解 (6) 漢詩① 漢詩の基礎知識 第13回 作品読解 (5) 漢詩② 春暁・竹里館 第14回 作品読解 (8) 漢詩③ 登高 第15回 まとめと試験						
授業外における学習 (準備学習の内容・時間)	授業前準備：次回範囲の作品を書き下し文にし、読めない漢字や意味の不確かな語は調べておくこと (1時間) 授業後復習：構文の確認、授業内で示す課題に取り組むこと (1時間)						
授業方法	講義：書き下し文の板書、本文音読、通釈の発表など双方向で進め、重要事項・構文名などの解説を行う。						
評価基準と評価方法	授業内での取り組み 60% 期末試験 40% 授業内での提出物： ①リアクションペーパー (講義のまとめ、質問感想) の内容を評価する【到達目標 (1) (2) の確認】 ②課題 (全回の課題) の内容を評価する【到達目標 (1) (2) の確認】 期末試験：授業で扱った作品や応用問題に対する理解度、応用力を評価する【到達目標 (1) (2) の確認】 課題に対するフィードバック リアクションペーパーに対するコメント・質問への回答は翌週に解説する						
履修上の注意	必ず漢和辞書を持参すること (電子辞書および有料の辞書アプリは可。語例や語義が詳述されているものに限る。よって、無料アプリおよびネット上の簡易辞書は不可) 積極的に授業に参加すること 2年次以降に「漢文講読」を引き続き履修することが望ましい						
教科書	『漢文入門』、榊原邦彦・伊藤一重ほか篇、和泉書院、ISBN9784870885196						
参考書	授業中に紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	外国語としての日本語と日本文化／外国語としての日本語と日本文化A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバー	J7154A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語としての日本語と日本文化						
授業の概要	留学生と日本人を対象としたクラスで、日本の文化について考える。日々の生活の中に見られるさまざまな、言葉や表現、生活習慣の中にひそんでいる「文化」について、改めて考えながら、いろいろな事例を自分でも探し出し、理解を深めていくことを目指す。毎回、コメントシートやレポート作成、プレゼン発表など何らかのまとめ作業を行う機会も設ける。						
到達目標	日本語の語彙や表現、生活習慣の中から、日本的なものとのとらえ方や価値観、文化などをつかめるようになること。また、それに関する自分の考えをまとめたり、発表したりできるようになること。						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 「自分」を表す呼び方 第3回 「さくら」がつく言葉 第4回 トイレの呼び方とバリエーション 第5回 「すみません」の使い方 第6回 湿気や水分の多いことを表す表現 第7回 同音異義語「あつい」 第8回 日本の衣食住 第9回 相手をほめる表現 第10回 日本語の呼びかけの人称代名詞 第11回 日本の四季 第12回 日本の年中行事 第13回 日本の祝日 第14回 贈り物とお返し 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	各テーマについて、図書館やウェブ上の資料などを利用して、積極的に調べるようにすること。文化に関する気付きを得たり、問題意識を持てるようになるために、各テーマに関する書籍や新聞記事を読むこと。（授業外学習60分）						
授業方法	各テーマについて講義を聞き、その後、パソコン等を用いて事例を探し出し、分類、分析する。ペアワークやグループワークを多用する。できるだけ毎時間、分析した結果をもとに、自分なりの考えや意見をコメントシートやレポートにまとめる。成果を発表する機会も設ける。						
評価基準と評価方法	知識・理解 30％（期末レポート） 汎用的技能 70％（コメントシート・授業内レポート40％、日常的な授業に対する取り組み30％）						
履修上の注意	・4/5以上の出席がないと、単位の認定はありません。 ・出席するだけでは単位は得られません。積極的に授業に参加してください。						
教科書	適宜ハンドアウトを配布する						
参考書	授業の中で紹介する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。また、今後必ず必要となるレポート等の文章の書き方についても学ぶ。						
到達目標	・大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。（汎用的技能(1)） ・体裁等のルールに則り、文章表現に破綻のないレポートを書くことができるようになる。（汎用的技能(2)）						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 ノートの取り方 第3回 図書館の使い方 第4回 エッセイ・ブログ・読書レビュー 第5回 わかりにくい文 第6回 段落の分け方 第7回 読解・要約 第8回 説明文 第9回 事実文と意見文 第10回 パソコンを使う 1-パソコンの基本操作とデータ管理方法- 第11回 パソコンを使う 2-パソコン・ソフトの便利機能- 第12回 レポートを書く 1-レポートの形式を学ぶ- 第13回 レポートを書く 2-資料を集める- 第14回 レポートを書く 3-引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ- 第15回 レポートを書く 4-レポートを書く-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：120分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：120分） 授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと。						
授業方法	講義形式および演習形式：練習問題・課題についてグループまたはペアワークをすることがある。その報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題・小テスト：20%、授業参加・積極性：40%、試験あるいはレポート：40%。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。また、今後必ず必要となるレポート等の文章の書き方についても学ぶ。						
到達目標	・大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。（汎用的技能(1)） ・体裁等のルールに則り、文章表現に破綻のないレポートを書くことができるようになる。（汎用的技能(2)）						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 ノートの取り方 第3回 図書館の使い方 第4回 エッセイ・ブログ・読書レビュー 第5回 わかりにくい文 第6回 段落の分け方 第7回 読解・要約 第8回 説明文 第9回 事実文と意見文 第10回 パソコンを使う 1-パソコンの基本操作とデータ管理方法- 第11回 パソコンを使う 2-パソコン・ソフトの便利機能- 第12回 レポートを書く 1-レポートの形式を学ぶ- 第13回 レポートを書く 2-資料を集める- 第14回 レポートを書く 3-引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ- 第15回 レポートを書く 4-レポートを書く-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：120分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：120分） 授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと。						
授業方法	講義形式および演習形式：練習問題・課題についてグループまたはペアワークをすることがある。その報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題・小テスト：20%、授業参加・積極性：40%、試験あるいはレポート：40%。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	J01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。また、今後必ず必要となるレポート等の文章の書き方についても学ぶ。						
到達目標	・大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。（汎用的技能(1)） ・体裁等のルールに則り、文章表現に破綻のないレポートを書くことができるようになる。（汎用的技能(2)）						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 ノートの取り方 第3回 図書館の使い方 第4回 エッセイ・ブログ・読書レビュー 第5回 わかりにくい文 第6回 段落の分け方 第7回 読解・要約 第8回 説明文 第9回 事実文と意見文 第10回 パソコンを使う1-パソコンの基本操作とデータ管理方法- 第11回 パソコンを使う2-パソコン・ソフトの便利機能- 第12回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第13回 レポートを書く2-資料を集める- 第14回 レポートを書く3-引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ- 第15回 レポートを書く4-レポートを書く-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることを調べておく。（学習時間：120分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：120分） 授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと。						
授業方法	講義形式および演習形式： 練習問題・課題についてグループまたはペアワークをすることがある。その報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題・小テスト：20%、授業参加・積極性：40%、試験あるいはレポート：40%。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ること心掛けてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	基礎演習						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバ－	J01010
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	大学での学び						
授業の概要	高校までの学びと大学での学びは大きく異なる。生徒時代の中等教育と学生としての高等教育の違いである。大学4年間の学びをスムーズに進める上で必須の基礎的認識と知識を身につける。また、今後必ず必要となるレポート等の文章の書き方についても学ぶ。						
到達目標	・大学での学びを理解し、専門分野について、学生各自が主体的関心を持って積極的活動が出来るようになる。（汎用的技能(1)） ・体裁等のルールに則り、文章表現に破綻のないレポートを書くことができるようになる。（汎用的技能(2)）						
授業計画	第1回 自己紹介 第2回 ノートの取り方 第3回 図書館の使い方 第4回 エッセイ・ブログ・読書レビュー 第5回 わかりにくい文 第6回 段落の分け方 第7回 読解・要約 第8回 説明文 第9回 事実文と意見文 第10回 パソコンを使う1-パソコンの基本操作とデータ管理方法- 第11回 パソコンを使う2-パソコン・ソフトの便利機能- 第12回 レポートを書く1-レポートの形式を学ぶ- 第13回 レポートを書く2-資料を集める- 第14回 レポートを書く3-引用の仕方・参考文献の挙げ方を学ぶ- 第15回 レポートを書く4-レポートを書く-						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業であることを調べておく。（学習時間：120分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：120分） 授業中に紹介する参考文献類をできるだけ多く読むこと。						
授業方法	講義形式および演習形式：練習問題・課題についてグループまたはペアワークをすることがある。その報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 課題・小テスト：20%、授業参加・積極性：40%、試験あるいはレポート：40%。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学講読／近代文学を読むB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J72220
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	探偵小説を読むこと						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、谷崎潤一郎「途上」と芥川龍之介「報恩記」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解し、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家谷崎潤一郎のこと 第3回 谷崎潤一郎の作品について 第4回 谷崎潤一郎「途上」講読 導入 第5回 谷崎潤一郎「途上」講読 応用 第6回 谷崎潤一郎「途上」講読 発展 第7回 谷崎潤一郎「途上」講読 展開 第8回 谷崎潤一郎「途上」講読 まとめ 第9回 芥川龍之介のこと 第10回 芥川龍之介「報恩記」講読 導入 第11回 芥川龍之介「報恩記」講読 応用 第12回 芥川龍之介「報恩記」講読 発展 第13回 芥川龍之介「報恩記」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくことともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学史／日本文学史B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J72140
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「文学史」の視点から見る「作品」						
授業の概要	明治・大正・昭和期の文学作品を文学史の観点から読み解く。文学作品を個々別々のものとして捉えるのではなく、様々な連鎖の中で有機的に読み解く作業をなす。細部を通して見えてくる文学史の全体像の構築が最終目標である。						
到達目標	明治・大正・昭和期の文学を時流に沿いながら深く理解し、その文化史的意味、現代的な意義を享受することができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近代の文学とは？ 第3回 明治期の文学 導入 第4回 明治期の文学 応用 第5回 明治期の文学 展開 第6回 大正期の文学 導入 第7回 大正期の文学 応用 第8回 大正期の文学 展開 第9回 昭和期の文学 導入 第10回 昭和期の文学 応用 第11回 昭和期の文学 展開 第12回 戦後の文学 導入 第13回 戦後の文学 応用 第14回 まとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習し、授業中に指示した本文テキストを精読しておくこと。関連する作品を数多く読む必要があるので、自宅、図書館等での勉学に100時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを授業時間の冒頭に各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続する講読形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	『日本近代文学年表』 鼎書房 ISBN978-4-907282-30-1 C0091						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学特殊講義／近代文学を学ぶB						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J73370
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた物語						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの類を含む)を中心にして、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	高校までの国語と、大学で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品や映画、ドラマを楽しむ、説得力のある形で、その魅力を主体的に発信できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 梶尾真治の世界 第3回 S Fの世界 第4回 過去と未来 第5回 並行世界 第6回 エマノンの存在 第7回 クロノス・ジョウンターの伝説 第8回 タイムマシンの問題 第9回 この胸いっぱいのお愛を 第10回 ピューアーな愛の物語 第11回 ナミヤ雑貨店の奇蹟 第12回 時空を超えること 第13回 フォーエバー・ヤング 第14回 旅と文学・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、講読的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	適宜、プリントを配布する。						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学の基礎／近代文学を読むA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J72210
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	犯罪の観点から小説を読む						
授業の概要	日本近代文学のあり方を考える作業の一環として、泉鏡花「外科室」と志賀直哉「范の犯罪」の2作品をとりあげる。それぞれの作品の時代背景、成立、構成を調査した上で、その作家像、影響関係を精査し、必要に応じて、関連する他の作品をも読解する。						
到達目標	近代以降の諸作家、諸作品、文学思潮、もしくは文学理論等について、最新の情報、最新の研究成果を理解し、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 作家泉鏡花のこと 第3回 泉鏡花の作品について 第4回 泉鏡花「外科室」講読 導入 第5回 泉鏡花「外科室」講読 応用 第6回 泉鏡花「外科室」講読 発展 第7回 泉鏡花「外科室」講読 展開 第8回 泉鏡花「外科室」講読 まとめ 第9回 志賀直哉のこと 第10回 志賀直哉「范の犯罪」講読 導入 第11回 志賀直哉「范の犯罪」講読 応用 第12回 志賀直哉「范の犯罪」講読 発展 第13回 志賀直哉「范の犯罪」講読 展開 第14回 2作品のまとめと筆記試験 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	近代日本の文化と歴史について学習しておくとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ精読してきた本文の読みを各自が提示して、その読みが的確であるかどうかを相互に確認する作業を継続していく講読形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%、筆記試験50%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	プリントを使用する						
参考書	授業中に適宜指示する						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	近代文学の研究／近代文学を学ぶA						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J73360
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	時空を超えた物語						
授業の概要	文字面のみが主として問題となる高校までの国語に対し、大学で研究する文学には、映画等、周縁の分野との関連に注目し、想像力を働かせることで読みとれるものがあるという側面がある。文学作品を新たな角度から読み進める試みの一部として、映画(記録フィルムの類を含む)を中心にして、様々な視点から物語の本質を探究することにする。						
到達目標	高校までの国語と、大学で研究する文学との違いを理解した上で、より深く、文学作品や映画、ドラマを楽しむ、説得力のある形で主体的に発信できる高度なコミュニケーション能力や表現力を身につけることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 浅田次郎の世界 第3回 『おもかげ』のこと 第4回 ある日どこかで 第5回 タイタニック 第6回 過去と未来 第7回 オーロラの彼方へ 第8回 この胸いっぱいのお愛を 第9回 タイムパラドックス 第10回 時空を超える旅 第11回 メトロに乗って 第12回 ピューアな愛の物語 第13回 フォーエバー・ヤング 第14回 旅と文学・筆記試験 第15回 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	数多く、文学作品を読み、映画、ドラマを観るとともに、授業中に提示した本文テキストを、あらかじめ精読すること。自宅、図書館等での勉強に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	講義形式に適宜、講読的要素を加味する。各自が、あらかじめ用意してきたものを、授業時間中に提示し、それを、どのように位置づけすればよいかを受講生間で相互に確認する作業を適宜、実施する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価50%と筆記試験50%						
履修上の注意	好奇心を旺盛にして積極的な授業参加を心がけること						
教科書	浅田次郎『おもかげ』毎日新聞出版 ISBN:978-4-620-10832-2						
参考書	授業中に適宜、紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	行書法／書道実技（行書）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバー	J71430
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	行書の基本用筆を理解・習得した上で、行書の古典作品を臨書し、創作につなげる。						
授業の概要	行書の特徴を学習し、それを基に行書の用筆法を習得する。 行書の代表的な古典を臨書することにより、用筆法だけではなく、古典の歴史的背景も学ぶ。 学習した行書の用筆法をいかし、半切の創作を行う。						
到達目標	行書の基本的な知識と技法を習得する。【知識・理解】【汎用的技能】 行書の代表的な古典に触れ、用筆法および歴史的背景を理解することができる。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス 硬筆による行書の基礎を習得する（行書の用筆法を習得し、行書の特徴を理解する。） 2、王羲之『蘭亭序』について①～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 四文字臨書 3、王羲之『蘭亭序』について②～『蘭亭序』の字の結構を学ぶ～ 六文字臨書 4、王羲之『蘭亭序』について③～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 四文字臨書 5、王羲之『蘭亭序』について④～『蘭亭序』の字のリズムを学ぶ～ 六文字臨書 6、王羲之『蘭亭序』について⑤～半切作品のまとめ方～ 7、王羲之『蘭亭序』について⑥～半切作品のまとめ方 仕上げ～ 8、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ①～歴史的背景の理解～ 9、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ②～四文字臨書～ 10、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ③～六文字臨書～ 11、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ④～半切～ 12、米芾、王鐸、傅山などの古典を学ぶ⑤～半切 仕上げ～ 13、創作① 創作について 14、創作② 作品の変化について（墨の濃淡、字の大小等） 15、創作③ 半切作品の清書						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回授業ですることに目を通しておく。 授業後：授業内に出来なかった課題や技法を次回授業までに出来るようにしておく。 （学習時間：1時間）						
授業方法	講義と実技による。						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	書道の用意（筆、半紙、墨汁、新聞紙等）は、講義第2回目から毎時間必ず持参すること。 半紙は多めに持って来ること。 携帯電話のマナーは厳守。私語は慎む。 書展を行う可能性があるので、それに出品する作品を制作してもらうことがある。						
教科書	蘭亭叙〈五種〉[東晋・王羲之／行書]二玄社						
参考書	必要に応じてプリントを配布します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバー	J71420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜1	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてのはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。【汎用的技能】 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2、楷書体について 3、行書体について 4、楷書体と行書体を書き分ける 5、平仮名と片仮名について 6、縦書きと横書きについて 7、はがき、手紙について 8、掲示文の書き方について 9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11、筆ペンによる実用書—慰斗書について 12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技と理論の予習と復習（学習時間：1時間）						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	書道実技（硬筆） 1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技（硬筆） 2限は硬筆書写検定2級受験レベル それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。 毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。						
教科書	『硬筆書写検定・3級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	硬筆／書道実技（硬筆）						
担当教員	西山 恵里香					科目ナンバー	J71420
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	文字を正しく丁寧に用途に応じて書けるよう、そのポイントを習得する。 また、それに必要な集中力を身につける。 今一度自分の文字を見直すことにより、より良い字が書けるよう意識する。						
授業の概要	楷書と行書の書き方を習得し、縦書き、横書きの書き方を学習する。 さらに、実用としてのはがき、手紙、掲示文の書き方も学習する。 正しく丁寧に書けるようになるとともに、漢字の基本事項として常用漢字の筆順や部首名の確認も行う。						
到達目標	文字を正しく丁寧に、用途に応じて書ける。【汎用的技能】 漢字の基本事項を理解し、草書体や旧字体、書写体も読める。【知識・理解】						
授業計画	1、ガイダンス、漢字の基本事項、基本点画について 2、楷書体について 3、行書体について 4、楷書体と行書体を書き分ける 5、平仮名と片仮名について 6、縦書きと横書きについて 7、はがき、手紙について 8、掲示文の書き方について 9、質疑応答と実技および基本事項に関するテスト 10、筆ペンによる実用書—基本用筆について、名前を書く 11、筆ペンによる実用書—慰斗書について 12、筆ペンによる実用書—暑中見舞い、年賀状を書く 13、手紙を書く—手紙文の書き方①（草稿） 14、手紙を書く—手紙文の書き方②（清書） 15、手紙を書く—筆ペンで宛名を書く、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技と理論の予習と復習（学習時間：1時間）						
授業方法	講義と実技						
評価基準と評価方法	毎時の提出作品、授業への取り組み姿勢 提出作品50% レポート30% 平常点20%						
履修上の注意	書道実技（硬筆） 1限は硬筆書写検定3級受験レベル 書道実技（硬筆） 2限は硬筆書写検定2級受験レベル それにともない、実技能力の確認を第一回の講義で行う。その後、授業登録までにクラス分けを発表する。 毎時提出課題があるため、欠席すると提出物もなく、評価できないので注意すること。						
教科書	『硬筆書写検定・2級合格のポイント』日本習字普及協会、1200円＋税 適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学史／日本文学史A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ－	J72130
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学の歴史を学び、それぞれの作品が生み出された歴史的な意味を考察する。						
授業の概要	古典文学がそれぞれの時代にどのように現れ、どのように享受されて来たのか考え、その特徴を講義する。						
到達目標	古典文学史について理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 古典文学作品の名称や作者名、その特徴について説明できる。【知識・理解】 古典文学に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 時代区分と『古事記』『日本書紀』 第2回 『万葉集』 第3回 漢文学の隆盛と勅撰和歌集の成立 第4回 物語文学 第5回 女流日記・随筆 第6回 歴史物語 第7回 説話集 第8回 和歌と歌学 第9回 軍記物語 第10回 能・狂言 第11回 文学の大衆化（浮世草子） 第12回 俳諧と松尾芭蕉 第13回 浄瑠璃と歌舞伎 第14回 和歌と国学 第15回 まとめと期末試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：古典文学史の流れが理解できるよう、教科書を読む。（学習時間：30分） 授業後学習：古典作品の名称や作者名、その特徴について説明できるよう復習する。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義 文学史の展開や古典作品についてのディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組み姿勢 10%						
履修上の注意	範囲を示して、小テストを実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『原色 新日本文学史[増補版]』（文英堂）978－4－578－27192－5						
参考書	適宜、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目							
科目名	古典文学特殊講義／古典文学を学ぶB							
担当教員	東野 泰子					科目ナンバー	J73350	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	鎌倉時代の日本文学を読むことを通して、現代につながる日本文化の独自性は何かを考える。							
授業の概要	武士や僧侶が権力を握り、文化の主たる担い手となっていた鎌倉時代には、戦う武士を描いた軍記物語や僧侶によって説かれた仏教説話が発達した。現代の日本語文につながる和漢混淆文という文体をもつ鎌倉時代文学は一般に広く知られた作品が多数存在し、現代の文化にも影響を与えている。広く知られた親しみやすい教材を用いて、鎌倉時代文学の基本的な事項を学び、これらの作品の何が人を感動させ、ながく読みつがれてきたのかについて考察する。							
到達目標	鎌倉時代文学史のおよその流れを説明できる。【知識・理解】 鎌倉時代文学の主要作品について、中学高校レベルの知識を確実なものにし、自分の言葉で説明できるようにする。【知識・理解】 鎌倉時代から現代にまでつながる日本文化の独自性について、自分の考えを述べ、新たな文化の創造について興味を持つ。【態度・志向性】							
授業計画	第一回 はじめに一現代の日本文化と古典文学 第二回 新古今和歌集 第三回 方丈記 ゆく川の流れ 第四回 平家物語① 祇園精舎 第五回 平家物語② 木曾最期 第六回 平家物語③ 敦盛最期 第七回 平家物語④ 那須与一 第八回 平家物語⑤ 剣巻「膝丸」「髭切」 第九回 宇治拾遺物語① 稚児のそら寝 尼、地蔵をみること 第十回 宇治拾遺物語② 検非違使忠明 第十一回 十訓抄 大江山 第十二回 沙石集 「くくるくつ」と「ひひりひつ」 第十三回 徒然草① つれづれなるままに 第十四回 徒然草② 高名の木のぼり 第十五回 まとめ							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習として、次回授業で扱う教材について、配布資料を見て、知っていること及び、教材文の大意を短文にまとめる。（学習時間30分程度）。 授業後学習として、教材文の現代語訳と文中の最重要ポイントを復習する（学習時間1時間程度）。							
授業方法	講義形式。 毎回、授業のはじめに、前回授業の教材文のまとめや今回授業の教材文の大意を書いて提出してもらう（リアクションペーパー）。 授業で扱った教材文について、代表者に、中学高校レベルの解説をする簡単なプレゼンテーションを行ってもらう。							
評価基準と評価方法	平常点（出席状況、リアクションペーパー等の提出、小テスト）60%、期末レポート40%							
履修上の注意	2／3以上の出席回数に満たないものは、期末レポートの提出を認めない。 理由のない遅刻、早退、途中退席は出席に数えない。 授業中のスマートフォン、タブレット等は使用不可。電子辞書は使用可。							
教科書	教科書は指定しない。 毎時、資料を配付する。							
参考書	授業中に紹介する。							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学の基礎／古典文学を読むA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J72190
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典文学読解の基礎と『伊勢物語』の講読						
授業の概要	『伊勢物語』は在原業平とおぼしき「男」を主人公にした平安時代の歌物語である。その男の、様々な女性との恋のやり取り、惟喬親王や友人との親愛の情などが百二十五章段に描かれている。本講義では、古文読解の能力を修得しながら、『伊勢物語』の本文を読み味わう。						
到達目標	古典文学史における『伊勢物語』の位置を説明できる。【知識・理解】 『伊勢物語』のおおよその口語訳ができる。【知識・理解】 基本的な古典語彙、文語文法などについて理解し、説明できる。【汎用的理解】						
授業計画	第1回 物語文学と『伊勢物語』の概説講義 第2回 『伊勢物語』の成立と構成についての講義 第3回 『伊勢物語』第1段についての講義 第4回 『伊勢物語』第4段についての講読 第5回 『伊勢物語』第5段についての講読 第6回 『伊勢物語』第6段についての講読 第7回 『伊勢物語』第9段前半についての講読 第8回 『伊勢物語』第9段後半についての講読 第9回 『伊勢物語』第23段についての講読 第10回 『伊勢物語』第23段についての講読 第11回 『伊勢物語』第41段についての講読 第12回 『伊勢物語』第69段についての講読 第13回 『伊勢物語』第87段についての講読 第14回 まとめと期末テスト 第15回 『伊勢物語』の生成と享受についてのまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：文語文法などの基礎的な知識を事前に学習する。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた箇所の読解の確認をし、文法事項を整理する。（2時間）						
授業方法	講義と講読（発表および質疑応答：プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	試験（期末試験と小テスト）60% 担当発表 30%、 平常点（質疑応答など）10%						
履修上の注意	各自に担当発表を課す。 遅刻、欠席は厳に慎むこと。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	『新校注 伊勢物語』片桐洋一・田中まき校注（和泉書院）						
参考書	『伊勢物語全読解』片桐洋一（和泉書院） 新編日本古典文学全集『伊勢物語』福井貞助（小学館） 新日本古典文学大系『伊勢物語』秋山 虔（岩波書店） 『伊勢物語全評釈』竹岡正夫（右文書院）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古典文学の研究／古典文学を学ぶA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J73340
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『源氏物語』と王朝文化の探究						
授業の概要	我が国の古典文学の中で屹立する存在である『源氏物語』の講義をおこなう。 『源氏物語』は千年もの間、連綿と読み継がれ、後世の文学や文化全般に多大な影響を及ぼしてきた。 本講義では、その『源氏物語』の魅力を明らかにできるよう、読んでいきたい。 ただし『源氏物語』は五十四帖にも及ぶ大部な物語なので、授業でその全体を細かく読解して行くのは難しい。 そこで、本講義では、教科書『源氏物語読本』に抜粋されている本文に沿って、読解、鑑賞しながら、平安時代の貴族の暮らしや文化についても探究したい。						
到達目標	『源氏物語』の展開を理解し、その流れを説明できる。【知識・理解】 『源氏物語』の本文がおおよそ読解できる。【知識・理解】 『源氏物語』を通して、平安時代の文化について説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 『源氏物語』の概要と構成 第2回 桐壺巻 第3回 夕顔巻 第4回 若紫巻 第5回 葵巻 第6回 賢木巻 第7回 須磨巻 第8回 玉鬘巻 第9回 初音巻 第10回 若菜上巻 第11回 柏木巻 第12回 御法巻 第13回 総角巻 第14回 浮舟巻 第15回 期末テストとまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：『源氏物語』の展開について概観を学習する。（1時間） 授業後学習：授業で学んだ『源氏物語』本文の意味について確認する。 授業で学んだ平安時代の文化について、さらに探究する。（1時間）						
授業方法	講義：『源氏物語』の登場人物や物語展開についてのディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。						
評価基準と評価方法	期末テスト 70% 小テスト 10% 授業に対する取り組み 20%						
履修上の注意	遅刻、欠席を厳に慎むこと。						
教科書	源氏物語読本 秋山虔・桑名靖治・鈴木日出男編（筑摩書房）4－480－91717－9						
参考書	『源氏物語評釈』（角川書店） 新日本古典文学大系『源氏物語』（岩波書店） 新日本古典文学全集『源氏物語』（小学館） 『源氏物語図典』（小学館） その他については、授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	古文講読／古典文学を読むB						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J72200
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	古典講読を通しての書誌学・国文法理解						
授業の概要	各受講者が演習発表で取り上げる古典作品をひとつ選んだのち、まずは、古典に関する書誌学的知識を身に付ける。次いで、影印本の翻刻、古典日本語の直訳、難解語句に対する注釈を行ない、講読資料にまとめ上げる。更には、話す力および聞く力の向上を図って、発表担当者と受講者との質疑応答も行なう。						
到達目標	(1) 古典に関する書誌学知識を得る。 (2) 崩し字を読むことができる。 (3) 国文法の基礎を理解し、古典読解に役立てることができる。 (4) 質疑応答を通して、話す力と聞く力とを身に付ける。 (5) 学説が必ずしも定まっていないことを知る。 (6) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 現行古典テキストと影印本との比較 03: 影印本の翻刻 04: 古典日本語の直訳とその難しさ 05: 古典講読 (1): 書誌情報の整理 06: 古典講読 (2): 翻刻の基本方針 07: 古典講読 (3): 崩し字をどう起こすか 08: 古典講読 (4): 漢字の崩し字 09: 古典講読 (5): 古典日本語の名詞 10: 古典講読 (6): 古典日本語の動詞 11: 古典講読 (7): 古典日本語の統語 12: 古典講読 (8): 直訳と意訳との違い 13: 古典講読 (9): 原文をどの程度直訳するか 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 翻刻: 少なくとも4時間は要する。 (2) 論文読解: 15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 講読資料作成: 少なくとも10時間は要する。						
授業方法	講義および演習。演習発表の担当者が受講者および教員と質疑応答を行ない、そこから得られた知見を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の小試験: 20% 演習発表: 40% 試験: 40% 特段の理由無く3回以上缺席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	油井 宏子 (2014) 『手がかりをつかもう!古文書くずし字』、柏書房						
参考書	児玉 幸多 (編) (1970) [2013] 『くずし字解説辞典 普及版』、東京堂出版 児玉 幸多 (編) (1981) [2011] 『くずし字用例辞典 普及版』、東京堂出版 飯倉 洋一 (編) (2017) 『アプリで学ぶくずし字 くずし字学習アプリKuLAの使い方』、笠間書院						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目							
科目名	茶道文化を学ぶ／茶道史							
担当教員	守屋 雅史					科目ナンバー	J72500	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	木曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本における「喫茶」に関する歴史的な変遷と、「喫茶」をめぐる芸能の中で育まれた美意識や精神性の形成と展開を概観する。							
授業の概要	今日、世界中ではさまざまな「お茶」が飲まれている。中でも日本は「茶を喫すること」を特別な芸能にまで昇華させ、一定の美意識のもとに、喫茶空間を整えながら、様々な喫茶の道具を選定してきた。特に文芸や禅宗との関わりの中で「喫茶」に関する精神性をとぎすませながら、茶道という多面的な芸能文化にまで展開してきた。中国との関係を踏まえながら、奈良期末から始まる日本における喫茶の歴史的変遷と、茶道文化の中で展開した美意識や精神性を学び、日本の伝統文化の特質を学習する。							
到達目標	(1)関連する様々な事象の知識とともに、「喫茶」に関する日本の文化のあり方について理解することができる。【知識・理解】 (2)「茶道」という芸能を例として、日本の伝統文化の特色を紹介することができるようになる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 イントロダクションー「お茶」とは何かー 第2回 中国唐代の「煮茶」ー陸羽と盧仝、法門寺出土茶器ー 第3回 奈良・平安期の「茶」ー嵯峨天皇と季御読経ー 第4回 中国宋代の「点茶」と鎌倉期の「茶」ー明菴栄西と金沢文庫文書ー 第5回 南北朝・室町期の「茶」ー会所の茶、茶寄合(闘茶)、門前の茶屋ー 第6回 「茶の湯」の始まりと茶の湯道具ー珠光と武野紹鷗ー 第7回 「茶の湯」の大成と「侘茶」ー御茶湯御政道と千利休ー 第8回 武家茶の成立ー古田織部・金森宗和・小堀遠州ー 第9回 公家の「茶の湯」と武家茶の展開ー後水尾天皇と片桐石州ー 第10回 家元制度と茶道の成立ー千宗旦と三千家ー 第11回 中国明清時代の「茶」と日本の「煎茶」の始まり 第12回 煎茶文化の展開ー売茶翁高遊外の登場から宗匠茶の成立までー 第13回 煎茶道具と茗識図録の時代 第14回 「茶の湯」の近代化と近代数寄者の登場 第15回 茶道文化の今日的課題と試験							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習：各回の授業テーマの内容などを教科書によって予習しておく(学習時間:30～60分)。さらに、疑問点があれば図書館にある下記の参考書などにも目を通しておく。 授業後学習：配布したレジメのプリントの重点事項などをラインマーカなどを用いて確認しておく。 なお、日常的な「茶」に対する関心は、文化事象を理解する上で大変重要なので、近隣の博物館・美術館で開催される「茶の湯」や「煎茶」をテーマとする展覧会を鑑賞したり、茶会にさそわれる機会があれば積極的に参加し、またお茶に関する新聞記事やテレビのニュース・特別報道番組などの情報に対しても、能動的に視聴するように努力すること。情報内容などに関する疑問点は、授業の終わりなどに質問をして理解することも大切である。							
授業方法	基本的には、各回設定したテーマに基づいた講義形式で授業を行う。 ただし、時間的に余裕があれば、Q & A方式の双方向授業やグループ討議なども行う。							
評価基準と評価方法	期末試験70%：授業で扱った講義内容に関する理解度などにより評価する。 レポート15%：出題した課題に対する、内容の整理、自身のコメントや疑問点などの記述により評価する。 平常点15%：授業前の小テストや授業中の質疑応答などで評価する。 課題に対するフィードバックの方法 平常時の質問に対しては授業中に解説し、レポートには講評を加えて返却する。							
履修上の注意	(1)出席が授業回数の3分の2以上になるように気を付けること。 (2)配布したレジメのプリントは、A4ポケットファイル(20ポケット)などに綴じて毎回授業に持参すること。 (3)レポートとして、各々の受講生が近隣の博物館等を見学したうえでまとめる内容の課題を出す場合があり、その場合の交通費や入館料等は受講生の自己負担となる。							
教科書	『千利休の「わび」とはなにか』神津朝夫著 KADOKAWA(角川ソフィア文庫)〔2015〕ISBN:978-4-04-408009-9 なお、授業ごとにレジメのプリントを適宜配布する。							
参考書	『淡交社50周年記念出版 茶道学大系』(全11巻)淡交社〔2000 ほか〕ISBN:978-4-473-01661-4 ほか 『熊倉功夫著作集』(全7巻)思文閣出版〔2016-2017〕ISBN:978-4-7842-1852-3 ほか 『中世の喫茶文化 儀礼の茶から「茶の湯」へ』吉川弘文館(歴史文化ライブラリー461)〔2018〕ISBN:978-4-642-05861-2 『茶道具の世界』(全15巻)淡交社〔1999 ほか〕ISBN-13:978-4473017017 ほか 『茶道具の鑑賞と基礎知識』茶道資料館編 淡交社〔2002〕ISBN-13:978-4473018625 『煎茶道具名品集』小川後楽著 淡交社〔2003〕ISBN-13:978-4473031044 『茶の湯の歴史』神津朝夫著 角川学芸出版(角川選書455)〔2009〕ISBN:978-4-04-703455-6							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学演習／社会言語学演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J73270
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	方言調査結果の集計と分析						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。後期は、夏休みに実施する方言調査結果の集計と分析の方法について、体系的に学ぶ。						
到達目標	調査した結果から、データの整理と分析を経て、発表できるようになる。（汎用的技能(2)）						
授業計画	※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。 第1回 調査票の回収 第2回 調査結果の管理方法 第3回 表計算ソフトでの集計方法 第4回 データ入力 第5回 入力データの見直し 第6回 調査結果の分析方法 第7回 各グループの分析方法の検討・確認 第8回 データ分析 第9回 データ分析（前回の続き） 第10回 発表内容と方法の検討 第11回 中間発表 第12回 発表内容と方法の見直し 第13回 最終発表（前半グループ） 第14回 最終発表（後半グループ） 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業計画前半のデータ入力やデータの分析は授業時間外での作業が必須となる。（学習時間：授業前後各120分） また、授業計画後半の結果発表に際しては、発表内容の検討を授業時間内で行い、それに従って授業外でも資料の作成を行う。（学習時間：授業前後各120分）						
授業方法	演習：グループワークを基本とする。各グループで調査結果を整理・分析し、発表する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（授業時の質疑応答含む）40%、中間発表20%、最終発表・レポート40%						
履修上の注意	社会言語学調査法／社会言語学演習Aを履修した学生を対象とする。調査の集計には、共同作業を伴う。共同作業に責任を負わない者の履修は、控えること。						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	社会言語学調査法／社会言語学演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J73260
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	地域方言調査の企画・立案・実施						
授業の概要	社会言語学は、社会とのかかわりにおいて言語をとらえようとする研究分野である。この演習では、方言の動態を調査し、その結果をまとめることで、地域方言研究のあり方を具体的かつ体系的に習得することを目指す。前期は、方言調査の実施にあたって、ことばの調査に関する企画・立案のしかたを学ぶ。夏休み中に、方言調査を実施する。調査研究を通して、人間同士の円滑なコミュニケーションとは何か、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションとは何かについてもいっしょに考えてみたい。						
到達目標	調査内容をよく理解したうえで、的確な調査票を作成できるようになる。（知識・理解(1)） 方言調査の全体像を把握し、実践できるようになる。（汎用的技能(3)）						
授業計画	第1回 方言を調査すること 第2回 先行調査・研究の検討① 方言概説—音声・音韻— 第3回 先行調査・研究の検討② 方言概説—アクセント— 第4回 先行調査・研究の検討③ 方言概説—語彙・文法・表現法— 第5回 先行調査・研究の検討④ 前回の調査結果の検討—アクセント— 第6回 先行調査・研究の検討⑤ 前回の調査結果の検討—活用— 第7回 先行調査・研究の検討⑥ 前回の調査結果の検討—接続助詞、終助詞— 第8回 調査の準備・調査票の作成① 調査項目の設定 第9回 調査の準備・調査票の作成② 質問方法の選定 第10回 調査の準備・調査票の作成③ 質問内容の選定 第11回 模擬調査 第12回 調査票の改良 第13回 調査票の説明（前半グループ） 第14回 調査票の説明（後半グループ） 第15回 夏休み調査に向けて ※ 8月初旬に方言調査を行なう。詳細は別途指示する。						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	調査票の作成には、授業外での準備が大切となるため、念入りに作成すること。調査目的に合わせて作成し、授業時に検討。検討結果を持ち帰り、調査票の改良に取り組む。（学習時間：授業前・後各120分）このサイクルでより良いものを目指してほしい。						
授業方法	講義形式と演習形式をミックスさせた方法をとる。 第2～7回：前年までの調査については講義を行い、方言の概要については各自で調べて発表する演習形式をとる。 第8回以降は、調査票作成のためにグループワークを行う。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（授業時の質疑応答含む）40%、発表20%、レポート（調査票含む）40%						
履修上の注意	8月初旬に2泊の方言調査を実施するので、参加することが望ましい（要宿泊費・交通費）。※朝来市近辺の予定調査に参加できない者、調査結果のまとめにかかわる共同作業に責任を負わない者は、履修を控えること。社会言語学演習Bを合わせて履修することが望ましい。						
教科書	プリントを配布するほか、授業中に紹介する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書とデザイン						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J73410
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	現代における「書」と「デザイン」の関係について考える						
授業の概要	いかに伝統的な「書」を日常生活に取り入れたり、商業的なデザインとして活用することができるかを考える。 また、デザインとしての書の制作に取り組む。						
到達目標	書とデザインの関係について、自分の言葉で語ることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 日常生活に取り入れたり、「商品」などにふさわしいデザイン作品を、意図を明確にして制作することができる。 。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業の進め方について） 2) 「書」と「デザイン」について 3) 作品A（テーマの設定） 4) 作品A（用具・用材） 5) 作品A（墨色・線質） 5) 作品A（構成） 7) 批評会（総合評価、次のテーマに向けて） 8) 作品B（用具・用材） 9) 作品B（墨色・線質） 10) 作品B（構成） 11) 批評会（総合評価、次のテーマに向けて） 12) 作品C（用具・用材） 13) 作品C（墨色・線質） 14) 作品C（構成） 15) 批評会（総合評価、まとめ）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	制作テーマとなる題材、素材を考えておく必要がある。（学習時間：90分以上）						
授業方法	講義 実習 プレゼンテーション ディスカッション						
評価基準と評価方法	テーマ設定と作品：60% 取り組み態度：20% 課題レポート：20%						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。 テーマへの関心、実技能力の向上を常に意識しておく必要がある。						
教科書	適宜プリントを配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書道講義						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ	J73470
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	書に関する総合的な知識を習得する。						
授業の概要	書に関わる基本的な事項を学習し、習得する。 長い歴史の中で、書がどのように考えられ、どのように鑑賞されてきたのかを学習する。						
到達目標	①書を総合的に理解できる。【知識・理解】 ②書について自分自身の言葉で論じることができる。【汎用的技能】						
授業計画	1) ガイダンス（授業内容や課題などの説明）、書に関わる諸分野について 2) 書とは何か（書写と書道、作品について） 3) 書道史について（中国と日本の書の歴史） 4) 書はどのように考えられてきたのか①—中国の書論について 5) 書はどのように考えられてきたのか②—中国の書論を読む 6) 書はどのように考えられてきたのか③—日本の書論について 7) 書はどのように考えられてきたのか④—日本の書論を読む（明治期以前） 8) 書はどのように考えられてきたのか⑤—日本の書論を読む（明治期以後） 9) 書の美について（書の美学、美的価値） 10) 作品の鑑賞と制作について 11) 文房四宝について（ゲストスピーカーによる講義） 12) 表具・作品の装丁について 13) 書と教育について 14) 書と他分野との関わりについて（文学、美術、工芸） 15) まとめ、質疑応答、確認テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。（学習時間：90分） 紹介した展覧会の鑑賞。						
授業方法	講義・実習（書や美術工芸に関わるものを制作する）						
評価基準と評価方法	平常点20%：授業態度 テスト40%：到達目標①の到達度確認 レポート40%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 受講者の人数によっては、文房四宝や表具などの体験型授業を行うことがある。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をととして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	持参する書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物がなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をととして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	持参する書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 道具を忘れたら、作品が書けない。したがって、提出物がなく、評価できないので注意すること。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書の作品制作／書道実技（作品制作）						
担当教員	丸山果織・真鍋昌生・石井みや美					科目ナンバー	J73520
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	自由制作。これまでの学習、経験をふまえて書作品を制作する。						
授業の概要	古典学習を踏まえた、基本的な書作品の制作を行う。その中で、各自が表現したいことを大切にすることは忘れない。制作手順を習得し、自らの作品を制作する。段階に応じ、個人に対して必要な助言・指導を行い、作品の完成へ導く。 また、書と関わりの大きい水墨画や、書を引き立てる彩色についても学ぶ。さらに、作品にふさわしい印を制作する。						
到達目標	①自らの着想にもとづき、意図、書く内容、書体、書風、形式を明確にすることができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②①をもとに制作を進めることができる。【知識・理解】						
授業計画	1) 作品制作とは何か【丸山】 2) 古典学習から制作へ（古典作品について、制作ノートの作成）【丸山】 3) 作品制作A（集字、草稿）【丸山】 4) 作品制作A（助言、指導）【丸山】 5) 作品A発表、助言、指導【丸山】 6) 書作品と印①（印について、草稿、印稿、布字、運刀）【真鍋】 7) 書作品と印②（押印、補刀）【真鍋】 8) 作品制作B（書と水墨画～季節に応じた水墨画）【石井】 9) 作品制作B（書と彩色～季節に応じた彩色）【石井】 10) 作品制作B発表、助言・指導【石井】 11) 作品制作C（集字・草稿）【丸山】 12) 作品制作C（助言・指導）【丸山】 13) 作品制作C（展開）【丸山】 14) 作品制作C（印の制作）【真鍋】 15) 作品C発表、助言、指導、まとめ【丸山】						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業時間内での練習量には限度があるので、授業外でも積極的に取り組むことを望む。（学習時間：90分） 紹介した展覧会の鑑賞。						
授業方法	実技、指導解説						
評価基準と評価方法	平常点30%：作品制作の取り組み姿勢 制作ノート20%：到達目標①の到達度確認 作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 欠席するとその時間分の進行が遅れるので注意すること。 印の制作や水墨画・彩色の授業は前後する可能性がある。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J71400
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をとおして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	書法の基礎と楷書法						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J71400
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	1	単位数	1.0
授業のテーマ	書道の基礎知識、書法基礎（楷書）						
授業の概要	書写、書道における総合的な基礎知識、及び、実技能力を身につける。 書写、書道教育に加え、実用の書においても、「楷書」の理解は重要である。 基本的な半紙や半切へ書き方はもちろん、臨書の意義を理解し、楷書の古典作品の臨書学習と鑑賞を行う。臨書学習をととして、楷書作品の創作へつなげる。						
到達目標	①書写、書道の基礎知識について理解し、説明することができる。【知識・理解】【汎用的技能】 ②楷書の基本的な運筆法を理解、習得し、創作につなぐことができる。【知識・理解】						
授業計画	1) ガイダンス（道具、授業内容などの説明）、漢字の変遷について、書写と書道について 2) 楷書演習－唐時代① 《孔子廟堂碑》半紙練習 3) 楷書演習－唐時代② 《孔子廟堂碑》半紙清書 4) 楷書演習－唐時代③ 《孔子廟堂碑》半切1/2練習 5) 楷書演習－唐時代④ 《孔子廟堂碑》半切練習 6) 楷書演習－唐時代⑤ 《九成宮醴泉銘》半紙練習 7) 楷書演習－唐時代⑥ 《九成宮醴泉銘》半紙清書 8) 楷書演習－唐時代⑦ 《九成宮醴泉銘》半切練習 9) 楷書演習－唐時代⑧ 《九成宮醴泉銘》半切清書 10) 楷書演習－唐時代⑨ 《顔氏家廟碑》半紙練習 11) 楷書演習－北魏時代 《牛橛造像記》半紙練習 12) 楷書演習－日本の楷書 光明皇后《楽毅論》半紙練習 13) 楷書演習－半切臨書練習（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 14) 楷書演習－半切臨書清書（《孔子廟堂碑》《九成宮醴泉銘》《顔氏家廟碑》《牛橛造像記》《楽毅論》より） 15) 楷書創作、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	実技添削物の復習 紹介した展覧会の鑑賞 授業時間内での練習量には限度があるため、授業外でも自主的な臨書学習を希望する。（学習時間：90分）						
授業方法	講義及び実技						
評価基準と評価方法	平常点20%：取り組み姿勢 レポート30%：到達目標①の到達度確認 提出作品50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	書道道具に関しては、ガイダンスで詳しく説明する。 関連する展覧会があれば鑑賞課題を設けることがある。 授業の成果を発表する場（作品展など）を設ける予定である。 書道関係のワークショップがあれば、積極的に参加することが望ましい。						
教科書	中国法書選31 欧陽詢『九成宮醴泉銘』二玄社、ISBN/4544005310 中国法書選32 虞世南『孔子廟堂碑』二玄社、ISBN/4544005329 必要に応じて資料を配布する。						
参考書	授業の中で紹介する。						

[illegible]

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	火曜2	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	日本近代の文化、文学の諸問題						
授業の概要	日本近代の文化、文学について、大学生生活の総決算としての卒業論文を執筆する手助けをする。卒業論文のテーマを教員の方から指示することはしないので、各自の関心、問題意識に応じて、それにふさわしい研究方法とその研究論文のありようを探究してもらうことになる。その補助として、適宜、最新の評論、研究論文の数々を教示することになるだろう。本当の意味での素晴らしい研究をなすためには、所謂「文学的常識」にまどわされることのない柔軟な発想と、細部に神経が行き届いた、総合的な面を忘れない物の見方が必要なことは言うまでもない。関連の様々な研究論文を実際に読み解くことを通して、本当の意味での学力を身につけ、立派な卒業論文を完成してもらいたい。						
到達目標	立派な卒業論文を完成させ、豊かな感受性をもって、生涯にわたって学び続けようとする姿勢を保持することができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 論文テーマの模索 1 第3回 論文テーマの模索 2 第4回 論文テーマの模索 3 第5回 論文テーマの模索 4 第6回 論文テーマの模索 5 第7回 論文テーマの模索 6 第8回 複数の論文テーマ選定 1 第9回 複数の論文テーマ選定 2 第10回 資料収集 1 第11回 資料収集 2 第12回 資料収集 3 第13回 資料収集 4 第14回 夏休みに向けて 1 第15回 夏休みに向けて 2 第16回 論文読み込み 1 第17回 論文読み込み 2 第18回 論文読み込み 3 第19回 論文テーマ決定 第20回 報告会 1 第21回 報告会 2 第22回 報告会 3 第23回 報告会 4 第24回 報告会 5 第25回 報告会 6 第26回 報告会 7 第27回 報告会 8 第28回 反省会 第29回 卒論試問 1 第30回 卒論試問 2						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	幅広い知見を得るべく努力すること。本文テキストの読解、自宅、図書館等での勉学に300～500時間程度は必要であろう。						
授業方法	主として個人指導						
評価基準と評価方法	卒業論文90%、卒論試問10%						
履修上の注意	学生生活の総決算にふさわしい卒業論文を執筆すべく努力すること オフィスアワー：9号館4階 火曜 12：30～13：00 木曜 12：20～12：50 教員の連絡先：19-20cjlshido[at]tcct.zaq.ne.jp ※[at]を@に置き換える。						

教科書	適宜、個別に、必要な本を指示。
参考書	適宜、個別に、必要な本を指示。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ－	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	月曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を作成する						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなしているからです。しかし、日本語を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。それを通じて各自テーマを見つけ、卒業論文を作成します。 この授業は留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【知識・理解】 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。【態度・志向性】 ③ 卒業論文を作成することができる。【汎用的技能】						
授業計画	＜前期＞ 第1回 卒業研究とは 第2回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第3回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第4回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第5回 参考文献の検索方法 第6回 データ収集の方法 第7回 データの分析 第8回 テーマ決定 第9回 各自のテーマについて発表と質疑応答4 第10回 各自のテーマについて発表と質疑応答5 第11回 各自のテーマについて発表と質疑応答6 第12回 各自のテーマについて発表と質疑応答7 第13回 各自のテーマについて個別指導1 第14回 各自のテーマについて個別指導2 第15回 前期のまとめと夏休みにすることの発表 ＜後期＞ 第16回 各自のテーマについての発表と質疑応答1 第17回 各自のテーマについての発表と質疑応答2 第18回 各自のテーマについての発表と質疑応答3 第19回 各自のテーマについての発表と質疑応答4 第20回 各自のテーマについての発表と質疑応答5 第21回 各自のテーマについての発表と質疑応答6 第22回 各自のテーマについての発表と質疑応答7 第23回 グラフや表の作り方 第24回 分析・考察の書き方 第25回 結論の書き方 第26回 要旨・参考文献の作成 第27回 卒業論文の完成 第28回 口頭試問1 第29回 口頭試問2 第30回 卒業論文発表会						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：課された資料を読むでくこと（学習時間90分） 事後学習：授業中にわからなかったことやキーワードについて調べること（学習時間90分） 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表、それに続く質疑応答を中心にする。						
評価基準と評価方法	授業態度（50％）発表（20％）レポート（30％） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。						

教科書	適宜ハンドアウトを配布
参考書	授業の中で紹介する。

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	卒業研究						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J04090
学期	通年／Full Year	曜日・時限	水曜3	配当学年	4	単位数	8.0
授業のテーマ	卒業論文を書く						
授業の概要	日本語学、方言学、社会言語学に関する研究をテーマとして卒業論文を執筆する学生に対し、その方法や手段についての助言をし、指導を行う。 研究と名がつくからには、どんな小さなことでも「何か新しいもの」を見つけてほしい。その過程で情報を収集し、分析する能力も養われるはずである。						
到達目標	各自のテーマに沿って卒業論文を書き上げ、その中で自分の論を客観的に評価し、これからの課題を見出すことができる。（態度・志向性(2)）						
授業計画	（前期） 第1回 卒業論文とは 第2回 各自の研究テーマの発表と検討① 第3回 各自の研究テーマの発表と検討② 第4回 各自の研究テーマの発表と検討③ 第5回 先行研究の調べ方 第6回 データ収集の方法 第7回 テーマ決定 第8回 研究計画の提出と検討 第9回 各自のテーマについての個別指導① 第10回 各自のテーマについての個別指導② 第11回 各自のテーマについての個別指導③ 第12回 各自のテーマについての個別指導④ 第13回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第14回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第15回 夏期休暇中の作業計画の提出と検討 （後期） 第16回 夏期休暇中の作業進捗状況の報告 第17回 研究報告とそれに対する指導 第18回 中間発表会①（論文題目・目次の報告含む） 第19回 中間発表会② 第20回 中間発表会に対する指導 第21回 各自のテーマについての個別指導① 第22回 各自のテーマについての個別指導② 第23回 各自のテーマについての個別指導③ 第24回 各自のテーマについての個別指導④ 第25回 各自のテーマについての個別指導⑤ 第26回 各自のテーマについての個別指導⑥ 第27回 論文提出要領の確認・口頭試問日程決定 第28回 提出直前相談 第29回 卒論発表会① 第30回 卒論発表会②						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	自分の興味・関心に従いテーマを決めることになるが、それが卒業研究として成り立つのかを見極めることも必要になってくるため、出来るだけ早くテーマ候補を探しておくことが肝要である。 テーマが決まってからは、調査・分析はもちろんのこと、先行研究もよく読み込んでほしい。（学習時間：授業前後各90分）						
授業方法	研究の進捗状況についての報告と指導を行う。 全体で集まって報告しあい、ディスカッションする回と、個別に詳細を検討する（指導する）回とがある。						
評価基準と評価方法	論文審査（口頭試問を含む）100%						
履修上の注意	より良いものにするための努力を怠らないこと。 全体でのディスカッションは積極的に発言すること（それが学生相互の利となります）。						

教科書	
参考書	

授業のテーマ	日本の造形芸術についての研究
授業の概要	書、絵画、工芸など日本の造形芸術を中心とした卒業論文を執筆する学生に対して、助言、指導を行う。
到達目標	日本の造形芸術を対象に、自分自身で研究、考察し、その成果を卒業論文としてまとめる。【知識・理解】【汎用的技能】
授業計画	前期 1) 卒業研究について 2) 予定している研究テーマについての発表 3) 研究テーマについての検討① 4) 研究テーマについての検討② 5) 研究テーマに関する先行研究 6) 研究テーマに関する書籍、資料の探索 7) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価① 8) 研究テーマに関する書籍、資料のまとめ・評価② 9) 研究報告・指導① 10) 研究報告・指導② 11) 論文の書き方について① 12) 論文の書き方について② 13) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導① 14) 論文の導入（「はじめに」）発表・指導② 15) 夏期休暇の課題発表 後期 1) 研究報告・質疑応答・指導① 2) 研究報告・質疑応答・指導② 3) 論文の題目・目次（構成）の報告・指導 4) 中間発表・指導① 5) 中間発表・指導② 6) 中間発表・指導③ 7) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認① 8) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認② 9) 論文の方向性、論題、目次（構成）に対する確認③ 10) 文章表現、記述に関する確認 11) 参考文献の表記、引用に関する確認 12) 研究報告・質疑応答① 13) 研究報告・質疑応答② 14) 研究報告・質疑応答③ 15) 卒業論文の成果報告
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	提示された資料は必ず調査し、そこから新たな資料を探索することを望む。（学習時間：180分）
授業方法	講義、発表、個別指導
評価基準と評価方法	論文審査と口頭試問（100%）
履修上の注意	常に自身の関心事と向き合い、できるだけ早く卒業論文のテーマを決め、資料の収集と分析に取り組むことを望む。 他者の研究発表に対しても関心をもち、積極的に質問を行い、自らの関心事と照らし合わせて考えることを望む。 書道展を予定しており、卒業論文を展示する。

教科書	
参考書	個別に提示する

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	正しいことばづかい						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバ－	J02050
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「正しい」とされることばづかいを知り、「正しいことばづかい」について考える						
授業の概要	敬語や日本語の運用上の「正しさ」について講義する。受講生には適切な言語運用能力も養ってほしいが、その奥にあるルールを知り、規範主義的なものの見方だけではなく、記述主義的な考え方も身につけてほしい。						
到達目標	・日本語の敬語のしくみと運用について規範に則った適切な使用ができるようになる。（汎用的技能(1)） ・日本語の適切な言語運用に関する知識を身につけることによって、ある状況におけることばの正誤判断（ふさわしいか否か）とその理由の説明ができるようになる。（知識・理解(1)）						
授業計画	第1回 ガイダンス／敬語の種類とはたらき① 素材敬語と対者敬語 第2回 敬語の種類とはたらき② 尊敬語・謙譲語（謙譲語Ⅰ） 第3回 敬語の種類とはたらき③ 丁寧語（謙譲語Ⅱ）・丁寧語 第4回 敬語の種類とはたらき④ 美化語、二重敬語 第5回 間違いやすい敬語 第6回 丁寧に話すための方略／ポライトネス 第7回 ここまでのまとめ 第8回 ことばの乱れ？ ① 「ら抜きことば」など 第9回 ことばの乱れ？ ② 「コンビニ敬語」など 第10回 文法とことばの正しさ 第11回 方言・位相とことばの正しさ 第12回 漢字表記と送り仮名 第13回 仮名遣い 第14回 まとめと記述課題 第15回 「正しいことばづかい」とは						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：敬語を含め、授業計画にあることばの問題を身近な例で確認することに努める。（学習時間：120分） 授業後：授業内で前回の講義内容に関する小テストを毎回行うので、授業で学んだことをふまえて整理する。（学習時間：120分） 特に、前回の講義内容をふまえた上で講義を進めることになるため、復習を怠らないこと。						
授業方法	講義：基本的には講義形式だが、テーマの導入を図る（もしくは授業内容の定着を図る）練習問題において、ペアまたはグループによるディスカッションを行うことがある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（コメントシートの記述内容を含む）20%、小テスト20%、中間試験30%、期末試験30%						
履修上の注意	・こちらが書き出したこと以外でも、自分で積極的にメモを取りノート作りをすることを心掛けてほしい（大学の学びの基本）。 ・私語を慎み、居眠りなども極力しないようにすること。注意しても直らない場合は退席を命じることがある（退席者は当該の回は欠席と見做す）。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論応用／多文化共生論B						
担当教員	辻野 理花					科目ナンバー	J72110
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	多文化社会における多様性の理解と共生						
授業の概要	多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では、多文化社会における多様性についてジェンダー、マイノリティ、メディアをキーワードに考察していきます。映像資料も活用しながら、他者の目で見えたと文化、創りだされるイメージと表現やそれがもたらす影響などについても見ていきます。文化背景の異なる人々の相互理解と共生について考えていきましょう。						
到達目標	文化の多様性について理解を深める【知識・理解、態度・志向性】 メディアをジェンダー、マイノリティの視点から分析・表現することができる【汎用性技能】 ジェンダー、マイノリティ、多文化に関する社会テーマに関して具体的に説明することができる【知識・理解】						
授業計画	第1回イントロダクション 第2回性の多様性 第3回文化とジェンダー 第4回フェミニズムとジェンダー研究 第5回ジェンダーと性別分業、性役割 第6回開発とジェンダー 第7回映像に見る開発とジェンダー 第8回労働とジェンダー 第9回ワーク・ライフ・バランス 第10回創られるジェンダーのイメージ①メディア・リテラシー 第11回創られるジェンダーのイメージ②メディアとジェンダー 第12回創られるイメージ：PSA広告の分析 第13回私たちのメディアをつくる①グループワーク 第14回私たちのメディアをつくる②グループプレゼンテーション 第15回まとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります 映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習または復習として調べてくる課題やテーマがある場合は、必ずやってくる（学習時間：1時間） 発表のための準備（学習時間：1時間） 授業中に取り組む課題が完成しなかった場合、次週までに完成させてくること 授業で学んだ視点から、みなさんが生活している社会について考えてみてください						
授業方法	基本は講義形式で行うが、グループワークやディスカッションと発表を行うため、積極的な参加を望む						
評価基準と評価方法	小テスト50%、課題40%、平常点（授業中の提出物、授業への発言、貢献度等）10%						
履修上の注意	必要に応じて随時資料を配布する 「多文化共生論基礎（多文化共生論A）」を合わせて履修することが望ましい 授業の一環として学外見学を実施する場合があります						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子他編著、2013、ミネルヴァ書房（ISBN 9784623065165） 『最新Study Guide メディア・リテラシー 入門編』鈴木みどり、2013、リベルタ出版（ISBN 9784903724379） 『Study Guideメディア・リテラシー ジェンダー編』鈴木みどり、2003、リベルタ出版（ISBN：4-947637-80-3） 『オランダ流ワーク・ライフ・バランス―「人生のラッシュアワー」を生き抜く人々の技法』中谷文美、2015、世界思想社（ISBN 9784790716464） その他授業中に随時紹介します。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	多文化共生論基礎／多文化共生論A						
担当教員	辻野 理花					科目ナンバー	J72100
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会と多文化共生						
授業の概要	グローバル化の世界的潮流の中で、国境を越えた人の移動が活発な時代を私たちは生きています。多文化共生とは、異なる文化的背景をもつ人たちがお互いに認め合い、共に生きることです。本講義では私たちの足元に存在する多様な文化について着目し、考察していきます。文化の多様性というのは、複数の社会の比較という方法を通してだけでなく、1つの社会の中にも存在します。そこで私たちが暮らす日本の社会にみられる多文化的な状況を知り、こうした状況の中での多様な文化との共生について考えていきます。テーマに応じて海外の事例についてもみていきます。						
到達目標	多文化共生についての理解を深める【知識・理解】 身近に存在する文化の多様性について説明することができる【知識・理解、汎用性技能】 グローバルな世界情勢とローカルでの状況との関連性を説明することができる【汎用性技能】						
授業計画	第1回イントロダクション 第2回日本社会における在住外国人の概要 第3回映像に見る多文化社会日本の歴史 第4回異文化接触空間と多文化イベント 第5回グローバリゼーションと共生 第6回グローバリゼーションと人の移動 第7回グローバリゼーションと日本社会 第8回外国人労働と受入れのしくみ 第9回外国人労働者の受入れ制度の比較 第10回在住外国人と暮らし 第11回在日外国人と労働 第12回在住外国人の語りに耳を傾ける 第13回グループワーク 第14回グループプレゼンテーション 第15回映像から知る在日外国人と教育とまとめ 講義の進度によって、順序や内容を変更することもあります 映像資料も必要に応じて活用しながら講義をします						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	予習または復習として調べてくる課題やテーマがある場合は、必ずやってくる（学習時間：1時間） 授業で取り組む課題について、授業時間内に完成できなかった場合は、次回までに完成させてくること 日ごろから世界情勢や日常の情景に目を向け、関心をもつ習慣を身につけてください						
授業方法	講義形式を主とし、必要に応じてグループワーク、プレゼンテーションを行います						
評価基準と評価方法	小テスト（複数回実施）60%、課題30%、授業中にかいてもらうリアクションペーパー・平常点10%で評価する						
履修上の注意	必要に応じて資料を配布する。授業中の課題に積極的に取り組んでください 授業の一環として学外見学を実施する場合があります						
教科書	プリントを配布します。						
参考書	授業中に随時紹介します。 『多文化社会への道』駒井洋編著（明石書店） 『外国人労働者受け入れを問う』宮島喬・鈴木江里子（岩波書店）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論応用／第二言語習得論B／Practical Second Language Acqui						
担当教員	大和 祐子					科目ナンバー	J73300
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	(1) 第二言語習得に関する基本的な用語が分かる。【知識・理解】 (2) 第二言語を習得する際に起こる現象について説明することができる。【汎用的技能】 (3) 第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：復習 第3回：インプット重視の指導 第4回：言語形式に焦点を当てた指導 第5回：フィードバック 第6回：言語習得に及ぼす影響(1)年齢の影響 第7回：言語習得に及ぼす影響(2)バイリンガリズム 第8回：言語学習に成功する人とはどんな人か 第9回：個人差の影響(1)適性 第10回：個人差の影響(2)学習スタイル 第11回：個人差の影響(3)動機づけ 第12回：個人差の影響(4)学習者の性格 第13回：個人差の影響(5)学習ストラテジー 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習。(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分)						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への貢献度、授業態度、リアクションペーパー等）50％、期末試験50％ 課題に対するフィードバックの方法： リアクションペーパーのコメントについて翌週授業で紹介・解説する。 期末試験結果の講評は、第15回の授業内で行う。						
履修上の注意	1. 授業で配布したプリントは、各回の出席者のみ配布する。欠席のときは、松蔭manabaからダウンロードすること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	なし。授業で使用したスライドは松蔭manabaからダウンロードできます。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	第二言語習得論基礎／第二言語習得論A／Fundamentals of Second Language						
担当教員	大和 祐子					科目ナンバー	J73290
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	第二言語習得						
授業の概要	第二言語習得論の基礎を学び、日本語教育をはじめとする言語教育になぜ第二言語習得論が必要か考える。						
到達目標	(1) 第二言語習得に関する基本的な用語が分かる。【知識・理解】 (2) 第二言語を習得する際に起こる現象について説明することができる。【汎用的技能】 (3) 第二言語習得論で扱われる現象を自分自身の外国語学習経験と照らし合わせて考えることができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：第二言語習得論とは 第3回：中間言語(1)独自のルール 第4回：中間言語(2)中間言語の発達 第5回：言語転移(1)母語の影響 第6回：言語転移(2)言語転移に影響する要因 第7回：習得順序 第8回：発達順序 第9回：インプットとアウトプット 第10回：アウトプットの効果 第11回：文法を教えることの意義(1)意識的な知識 第12回：文法を教えることの意義(2)教室での学習の意味 第13回：文法を教えることの意義(3)教室でのインプット 第14回：まとめと試験 第15回：試験返却・解説・質疑応答						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習。(学習時間：90分) 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。(学習時間：90分)						
授業方法	講義形式で行うが、グループワーク、簡単な課題も予定している。						
評価基準と評価方法	平常点（授業への貢献度、授業態度、リアクションペーパー等）50％、期末試験50％ 課題に対するフィードバックの方法： リアクションペーパーのコメントについて翌週授業で紹介・解説する。 期末試験結果の講評は、第15回の授業内で行う。						
履修上の注意	1. 授業で配布したプリントは、各回の出席者のみ配布する。欠席のときは、松蔭manabaからダウンロードすること。 2. 授業回数の3分の1以上欠席した人は定期試験の受験資格を失うものとする。						
教科書	なし。授業で使用したスライドは松蔭manabaからダウンロードできます。						
参考書	授業内で適宜紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	中国書道史						
担当教員	真鍋 昌生					科目ナンバー	J72480
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	中国の書道史						
授業の概要	中国書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景を踏まえ当時の書の特徴を理解する。その際、具体的な作品を取り上げ鑑賞・臨書し、より理解を深める。						
到達目標	漢字の発生からその変遷進化、書体の完成、書芸術の発生展開などがわかるようになる。【知識・理解】 中国の書の歴史の基本的事項について理解習得することができる。【知識・理解】						
授業計画	①ガイダンス、中国書道史について ②殷、西周（甲骨文、金文） ③西周、東周（石鼓文、帛書） ④秦、前漢（小篆、隸書） ⑤後漢（八分隸、漢碑） ⑥三国、西晋（殘紙、書人の登場） ⑦東晋（王羲之、王献之） ⑧南北朝（龍門二十品） ⑨隋、唐（墓誌銘、初唐の三大家） ⑩唐（中唐・晩唐の書、顔真卿） ⑪宋（淳化閣帖、北宋の四大家） ⑫元、明（趙孟頫、元末明初の書人） ⑬明（中期の書道興隆、董其昌） ⑭清（明末清初の書） ⑮清（揚州八怪、金石学、篆刻）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業は中国史の時代区分を追いながら進める。よって、中学高校レベルの基礎教養を必要とするのでその復習をしておくこと。 学習時間：90分						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	平常点50%、課題・レポート50%						
履修上の注意	10回以上の出席が必要。不足の場合は評価対象外となる。 最低限のマナーを守ること。 授業に際してテキスト・プリントを忘れずに持参すること。 関連する展覧会があれば、美術館で鑑賞会を行うことがある。						
教科書	『書Ⅰ』（光村図書）490円（内税） 『書Ⅱ』（光村図書）490円（内税）						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学／日韓対照言語学基礎／日韓対照言語学A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ－	J72070
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	韓国語の基礎の習得と日韓対象音韻論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を示したのち、音韻の面から日本語と韓国語との共通点・相違点を教授する。更に、韓国語力向上に繋がる音声弁別の要点を解説する。						
到達目標	(1) 音声、音素、文字の関係を掴む。 (2) 音韻の面から日本語と韓国語との共通点・相違点を知る。 (3) 韓国語力向上に繋がる音声弁別の要点を掴む。 (4) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: ハングルの読み書き: 母音 03: 教科書第1課の学習 04: ハングルの読み書き: 子音 05: 教科書第2課の学習 06: 音声と音素との違い 07: 教科書第3課の学習 08: 韓国語音素論 09: 教科書第4課の学習 10: 日韓対照音素論 11: 教科書第5課の学習 12: モーラ、音節、アクセント 13: 教科書第6課の学習 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 各課の課題 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。 学習時間は毎日30分。このくらい取り組みれば、初級韓国語力はすぐに身に附く。						
授業方法	講義						
評価基準と評価方法	日々の課題: 40点 試験: 60点						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	金 京子・喜多 恵美子 (2013)『改訂版 パランセ韓国語初級』、朝日出版社						
参考書	服部 四郎 (1951)『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979)『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 梅田 博之 (1985)『NHKハングル入門』、日本放送出版協会 油谷 幸利 (2005)『日韓対照言語学入門』、白帝社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日韓対照言語学応用／日韓対照言語学B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J72080
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	韓国語運用力の向上と日韓対照形態統語論						
授業の概要	言語形式に単位および構造が存在することを示したのち、文法の面から日本語と韓国語との共通点・相違点を享受する。更に、韓国語力向上に繋がる文法の要点を説く。						
到達目標	(1) 言語形式に単位および構造が存在することを知る。 (2) 文法の面から日本語と韓国語との共通点・相違点を知る。 (3) 韓国語力向上に繋がる文法の要点を掴む。 (4) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 形態法から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 03: 教科書第7-8課の学習 04: 名詞から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 05: 教科書第9-10課の学習 06: 動詞から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 07: 教科書第11-12課の学習 08: 形容詞から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 09: 教科書第13-14課の学習 10: 統語法から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 11: 教科書第15-16課の学習 12: 句および節の構造から見る日本語と韓国語との共通点・相違点 13: 教科書の総復習 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 各課の課題 (2) 演習授業の準備：少なくとも4時間は要する。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。 学習時間は毎日30分。このくらい取り組めば、初級韓国語力はすぐに身に附く。						
授業方法	講義。板書を積極的に活用する。授業内課題を毎回与え、学生から得た正答や名案を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の課題：30点 授業演習：30点 試験：40点						
履修上の注意	(1) 韓国語の辞書を必ず用意すること。オンライン辞書を利用してもよいが、そのほかの辞書とは異なり、授業中の使用機会は制限される。 (2) 特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	金 京子・喜多 恵美子（2013）『改訂版 パランセ韓国語初級』、朝日出版社						
参考書	梅田 博之（1985）『NHKハングル入門』、日本放送出版協会 油谷 幸利（2005）『日韓対照言語学入門』、白帝社						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学／日中対照言語学基礎／日中対照言語学A						
担当教員	古川 典代					科目ナンバ－	J72050
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。日本語の中に見られる中国語の影響や、中国語への日本語の逆輸入などを把握し、同時代の2言語を比較対照しながら日本語を客観的に捉える視点を育成する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）を把握することで、学習者の母語の干渉についても理解を深める。						
到達目標	中国語の特性を認識し、日中両言語間の類似性と相違性を把握できる。【知識・理解】 日本と中国との異同の中から歴史的関係性に興味を持つことができる。【態度・志向性】						
授業計画	①中国・中国語概況 ②日本語にみられる中国語の影響と中国語にみられる日本語の影響 ③日中同形異義語 ④中国人にとって難しい日本語（作文） ⑤中国人にとって難しい日本語（会話） ⑥字幕翻訳について ⑦日本語と中国語の文法の違い ⑧アルファベットや数字によるコミュニケーション ⑨日本と中国の文化・風習の違い ⑩日中の飲食文化について ⑪まとめ ⑫受講生がテーマを決めて研究発表（習慣） ⑬受講生がテーマを決めて研究発表（文化） ⑭受講生がテーマを決めて研究発表（語彙・翻訳） ⑮総括						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアナテナを張り巡らせておく。各界のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。（学習時間30分） 授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。後半に研究発表が控えているので、日頃から問題意識を持ち、情報収集する。（学習時間1時間）						
授業方法	演習：毎回のテーマに合わせ、日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。12回目の授業時より、自身が興味を持った事柄について調べ、10分程度の研究発表を行う。それに関してクラス内でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中のパフォーマンス等。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各－1点）、 研究発表30%、レポート20%						
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲 くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日中対照言語学応用／日中対照言語学B						
担当教員	古川 典代					科目ナンバー	J72060
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と中国語の対照研究						
授業の概要	日本語と中国語を対照することにより、両者の差異と共通点について考える。前期で日中対照言語学の概要を把握したので、後期は代表論文を通して日中対照言語学の研究状況を把握する。また、日本語教育の観点から、学習者の母語（中国語）干渉について誤用例分析を行う。						
到達目標	日中対照言語学A（基礎）をベースとし、中国語母語話者への日本語教育時における母語の干渉について理解する。【知識・理解】 中国語を母語とする日本語学習者への日本語教授法の工夫ができる。【態度・志向性】						
授業計画	①中国の通過儀礼（結婚式事情） ②日中祝祭日比較 ③外来語の受容と色彩感覚の差異 ④日本語と中国語の同形異義語 ⑤中国語の発音特性 ⑥中国語の文法特性 ⑦中国人日本語学習者の誤用分析 ⑧日本語と中国語の対照論文分析Ⅰ ⑨日本語と中国語の対照論文分析Ⅱ ⑩まとめ、ディスカッション、課題提示 ⑪個人研究発表1（国情の違い） ⑫個人研究発表2（文化・風習の違い） ⑬個人研究発表3（言葉の違い） ⑭研究発表の補足と講評 ⑮総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：日中の違いを毎回のテーマごとに対照するので、日頃から興味のアナテナを張り巡らせておく。各界のテーマをネットで調べるなど事前知識を用意しておく。（学習時間30分） 授業後学習：授業で取り上げた内容について疑問点を自分なりに調べてみる。次週の冒頭にける解答と照らし合わせる。後半に研究発表が控えているので、日頃から問題意識を持ち、情報収集する。（学習時間1時間）						
授業方法	演習：毎回のテーマに合わせ、日中を対照して紹介する。その後、質疑応答を経て、理解を深める。コメントシートに自身の考えや、気づいた点などを書き込む。8回目、9回目の授業では、既存の日中対象研究の論文を読む。これらにより理解を深めたうえで、11回目の授業時より、自身が興味を持った事柄について調べ、20分程度の研究発表を行う。それに関してクラス内でディスカッションする。						
評価基準と評価方法	平常点50%（授業中のパフォーマンス等。遅刻、早退、携帯いじり、居眠り、私語は各－1点）、 研究発表20%、レポート30%						
履修上の注意	中国語の学習経験があるほうが望ましい。三分の二以上の出席が必要。						
教科書	毎回プリントを配布						
参考書	『日中対照言語学研究論文集』大河内康憲　くろしお出版						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日英対照言語学／日英対照言語学基礎／日英対照言語学A						
担当教員	里井 真理子					科目ナンバー	J72030
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究						
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。						
到達目標	(1)日本語と英語の特徴を知り、対照研究への興味・関心を具体的に意識することができる。【態度・志向性】 (2)日本語と英語の対照研究における、基本的な専門用語・事柄などの知識を理解することができる。【知識・理解】 (3)日本語と英語の対照研究における、基本的な専門用語・事柄についてわかりやすく説明・解説ができる。【知識・理解】						
授業計画	第1回 ガイダンス 英語と日本語の違いについて 第2回 言語の歴史 (1) 英語編 第3回 言語の歴史 (2) 日本語編 第4回 言語の語彙 日本語・英語の語彙的特徴 第5回 言語の語順 世界の言語の語順 日本語・英語の語順 第6回 言語の音声 日本語・英語の音声的特徴 第7回 言語の文字 世界の文字 日本語・英語の文字特徴 第8回 丁寧表現 日本語と英語の敬語 第9回 言語変種 日本語と英語の方言 第10回 言語と社会階級 第11回 性別・年齢による語差 第12回 言語接触 第13回 非言語伝達 第14回 言語と文化 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前学習：予め提示された専門用語・事柄について下調べをする。（学習時間2時間） 授業後学習：配布プリント、授業ノートを参考に授業内容の確認・整理をする。 次の授業で復習テストによる理解度を確認する。（学習時間2時間）						
授業方法	講義：各授業テーマの導入、解説・講義を行います。 ペアまたはグループによるさまざまなQuiz・課題についてディスカッションを行います。						
評価基準と評価方法	授業時の活動及び授業態度（40%）、レポートテスト（60%） 授業時の活動及び授業態度：積極的にディスカッションに参加し、Quiz・課題についての内容・記述的的確さを評価します。到達目標(2)及び(3)に関する到達度を確認。 レポートテスト：各レポートテーマについて、授業で取り上げた専門用語・事柄に対する理解度、また説明・解説の簡潔さ、日本語または英語または対照研究についての興味・関心の明確性などについて評価します。到達目標(1)(2)(3)に関する到達目標を確認。						
履修上の注意	1. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 2. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 3. 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4. 質疑等は事前に予約をしてください。						
教科書	プリント配布						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目							
科目名	日英対照言語学応用／日英対照言語学B							
担当教員	里井 真理子					科目ナンバー	J72040	
学期	後期／2nd semester		曜日・時限	月曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語と英語の対照研究							
授業の概要	日本語と英語について歴史や文法など、いろんな側面を対照研究することにより両者の差異と共通点を見ていきます。また日本語学習者、英語学習者にとって習得することが難しいと言われる「日本語らしさ」「英語らしさ」についても考えていきます。							
到達目標	(1)日本語と英語の特徴における知識を深め、対照研究への興味・関心を具体的に意識することができる。【態度・志向性】 (2)日本語と英語の対照研究における、専門用語・事柄などの知識をさらに深めることができる。【知識・理解】 (3)日本語と英語の対照研究における、専門用語・事柄などについてより具体的に説明・解説できる。【知識・理解】							
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 言語の歴史(1) 英語編(応用編) 第3回 言語の歴史(2) 日本語編(応用編) 第4回 言語の語彙 日本語・英語の語彙的特徴(応用編) 第5回 言語の音声 日本語・英語の音声的特徴(応用編) 第6回 言語の文字 世界の文字 日本語の文字(応用編) 第7回 丁寧表現 日本語と英語の敬語(応用編) 第8回 言語変種 日本語と英語の方言(応用編) 第9回 言語と社会階級(応用編) 第10回 性別・年齢による語差(応用編) 第11回 言語とイメージ 日本語・英語の特徴 第12回 言語接触(応用編) 第13回 非言語伝達(応用編) 第14回 言語と文化(応用編) 第15回 まとめ							
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前学習：予め提示された専門用語・事柄について下調べをする。(学習時間2時間) 授業後学習：配布プリント、授業ノートを参考に授業内容の確認・整理をする。 次の授業で復習テストによる理解度を確認する。(学習時間2時間)							
授業方法	講義：各授業テーマの導入、解説・講義を行います。 ペアまたはグループによるさまざまなQuiz・課題についてディスカッションを行います。							
評価基準と評価方法	授業時の活動及び授業態度(40%)、レポートテスト(60%) 授業時の活動及び授業態度：積極的にディスカッションに参加し、Quiz・課題についての内容・記述的的確さを評価します。到達目標(2)及び(3)に関する到達度を確認。 レポートテスト：各レポートテーマについて、授業で取り上げた専門用語・事柄に対する理解度、また説明・解説の簡潔さ、日本語または英語または対照研究についての興味・関心の明確性などについて評価します。到達目標(1)(2)(3)に関する到達目標を確認。							
履修上の注意	1. 毎回、授業始めに復習テストを行います。 2. マナーを守ること、授業への積極的参加を求めます。 3. 10回以上の出席がないと、受講資格を失います。 4. 質疑等は事前に予約をしてください。							
教科書	プリント配布							
参考書								

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学外研修／日本語・日本文化学外研修A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバ－	J73380
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	神戸市灘区における阪急・JR・阪神沿線の言語景観の比較調査						
授業の概要	言語が景観や事物の価値に与える影響を示したのち、事物を比較・対照する方法と、企画や催しを主体的に計画・準備する方法とを教授する。						
到達目標	(1) 言語が景観や事物の価値に与える影響を知る。 (2) 事物を比較・対照する方法を身に付ける。 (3) 企画や催しを主体的に計画・準備する力を身に付ける。 (4) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明。「序章 日本の言語景観」の講読 02: 「第1章 多言語化と言語景観」「第2章 経済言語学からみた言語景観」の講読 03: 「第4章 言語景観の中の看板表記とその地域差」「第5章 地下鉄案内板にみるローマ字表記」の講読 04: 調査票作成 05: 学外研修：神戸市灘区における阪急・JR・阪神沿線の言語景観の比較調査 06: 調査結果報告 07: 調査結果分析						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 教科書熟読：各章少なくとも2時間は要する。 (2) 調査票作成：少なくとも4時間は要する。 (3) 調査結果分析：少なくとも10時間は要する。 授業は予習を前提に進める。						
授業方法	講義で知識を附けたのち、言語景観調査に臨む。 調査結果分析で学生から得た正答や名案は受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	調査準備：25% 実地調査：25% 学期末報告書：50% 特段の理由無く2回以上欠席した者は、その最終成績を0点とする。						
履修上の注意	(1) 神戸市灘区で行なう言語景観調査には必ず参加すること。 (2) なお、その日時は第5回を予定しているが、受講者の都合によっては別の回に移す。 (3) 特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	庄司 博史ほか（2009）『日本の言語景観』、三元社						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語学の研究／日本語学を学ぶA						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J73280
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする音声学および音韻論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を示したのち、音声に象徴性が備わっていることを教授する。						
到達目標	(1) 音声、音素、文字の関係を掴む。 (2) 音声に象徴性が備わっていることを知る。 (3) 科学的分析方法を知る。 (4) 学説が必ずしも定まっていないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要、授業計画、到達目標の説明 02: 音声とその象徴性 03: 「第2章 優しい音、ツンツンした音」の講読 04: 国際音声字母 (The International Phonetic Alphabet = IPA) の理解 05: IPA作文 06: 「第3章 大きな音、小さい音」の講読 07: 「第4章 濁音と向かい合う」の講読 08: 調音音声学と音響音声学 09: 音聲分析実践 10: 「第5章 学生たちが見つけた音象徴」の講読 11: 「第6章 ポケモンでする音象徴研究」の講読 12: 知覚音声学 13: 「第7章 より広い視点から音象徴・音声学を考える」の講読 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 教科書熟読：各章少なくとも2時間は要する。 (2) 論文読解：15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 講読資料作成：少なくとも4時間は要する。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義。板書を積極的に活用する。授業内課題を毎回与え、学生から得た正答や名案を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の課題：40点 試験：60点						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	川原 繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?』、ひつじ書房						
参考書	服部 四郎 (1951) 『音声学』(岩波全書131)、岩波書店 服部 四郎 [1951] (1979) 『新版 音韻論と正書法』、大修館書店 斎藤 純男 (2006) 『改訂版 日本語音声学入門』、三省堂 川原 繁人 (2015) 『音とことばのふしぎな世界』、岩波書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎／日本語教育演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J72320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、実習のためになささまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーション練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、日本語教育における実習授業を実施する。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学内・学外での授業実習や見学を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 実習指導 1・教授法 第2回 実習指導 2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導 3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導 4・教案指導の書き方 第5回 実習指導 5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業 1 L2, L3 第10回 模擬授業 2 L4, L5 第11回 模擬授業 3 L6, L7 第12回 模擬授業 4 L8, L9 第13回 模擬授業 5 L10, L11 第14回 実習授業 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間120分） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間120分）						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。授業見学やフィールドワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級 I 本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の基礎／日本語教育演習A						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバー	J72320
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育の模擬実習を行う。初級教材「みんなの日本語」の教材研究のあと、実習のためになささまざまな教授法について概説する。また、導入、ドリルの種類、パターンプラクティス、文型練習、コミュニケーションな練習など授業の流れにそって、その具体的な技術、学習者への対応など実習に必要な技術の指導をし、教案作成などの実習のための下準備をし、日本語教育における実習授業を実施する。授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学内・学外での授業実習や見学を行うことがある。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 実習指導1・教授法 第2回 実習指導2・教材研究 色々な教え方 第3回 実習指導3・教材研究 パターンプラクティスに基づく練習 第4回 実習指導4・教案指導の書き方 第5回 実習指導5・教案指導を書く 第6回 文型の調べ方 第7回 文型の説明の仕方 第8回 初級のポイント 第9回 模擬授業1 L2, L3 第10回 模擬授業2 L4, L5 第11回 模擬授業3 L6, L7 第12回 模擬授業4 L8, L9 第13回 模擬授業5 L10, L11 第14回 実習授業 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間120分） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間120分）						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業・教育実習）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意	・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級 I 本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践／日本語教育演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J72330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、学内の留学生を対象として日本語教育の教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置いて、実習を行う。この教壇実習では、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え直接フィードバックをもらうことで日本語を教える技能の上達を目指す。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 実習授業 1 L11, L12 第5回 実習授業 2 L13, L14 第6回 実習授業 3 L15, L16 第7回 実習授業 4 L17, L18 第8回 実習授業 5 L19, L20 第9回 実習授業 6 L21, 第10回 実習授業 7 L22, 第11回 実習授業 8 L23, 第12回 実習授業 9 L24, 第13回 実習授業 10 L25, 第14回 初級文型のまとめ 第15回 模擬授業の振り返り・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間120分） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間120分）						
授業方法	講義形式で学んだあと、教壇で実習を行う。授業見学やフィールドワークを行うこともある。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意	・「日本語教育実習の基礎」あるいは「日本語教育演習A」を履修済みであること。 ・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教育実習の実践／日本語教育演習B						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバー	J72330
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語教育の実習を行う技能を身につける。						
授業の概要	日本語教育実習の第二段階として、学内の留学生を対象として日本語教育の教壇実習を行う。文型を積み重ね教育での日本語教育初級の流れと全体をつかみ、初中級、中級、上級へと続く日本語教育の基礎固めを行う。ここでは初級の4技能のうち特に「話す・聞く」教育に重点を置いて、実習を行う。この教壇実習では、学習者の反応など日本語教育の現場で起こる具体的、個別的な事例を体験し、多様化する学習者に対応できるような機会を提供することを目的とする。また、授業の一環として、留学生との交流や学外での教育実習を予定している。そのため、授業時間外での留学生との合同授業や学外での授業実習〔見学〕を行うことがある。また、このクラスは交換留学生も履修するクラスになっており、交換留学生に対して、日本語を教え直接フィードバックをもらうことで日本語を教える技能の上達を目指す。						
到達目標	① 教えるべき文型が理解できる。【知識・理解】 ② 教案を作ることができる。【知識・理解】 ③ 実際に日本語の授業を行うことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 オリエンテーション 第2回 上手な教え方のコツ 第3回 上手な教え方の工夫 第4回 実習授業 1 L11, L12 第5回 実習授業 2 L13, L14 第6回 実習授業 3 L15, L16 第7回 実習授業 4 L17, L18 第8回 実習授業 5 L19, L20 第9回 実習授業 6 L21, 第10回 実習授業 7 L22, 第11回 実習授業 8 L23, 第12回 実習授業 9 L24, 第13回 実習授業 10 L25, 第14回 初級文型のまとめ 第15回 模擬授業の振り返り・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	担当箇所の教案作り（学習時間120分） 担当箇所の授業のプリント、PPTなどの準備（学習時間120分）						
授業方法	講義形式＋実習（模擬授業・教育実習）						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価50% 模擬授業25% 教案・実習レポート25%						
履修上の注意	「日本語教育実習の基礎」あるいは「日本語教育演習A」を履修済みであること。 ・1クラス16名くらいを予定している。希望者多数の場合は以下の条件順に選考するので、必ず1回目の授業に出席すること。1回目の授業に参加しない者は受講を認めない。 1 4年生の人。 2 卒業後、TAを目指している人。 3 日本語教授法基礎ABと日本語教授法応用ABを既に履修済みの人。 ・実習科目であるので、4/5以上の出席がないと単位を認定できない。 ・学外の機関に見学や教育実習に実習に行くことがある。						
教科書	みんなの日本語 初級Ⅰ本冊（スリーエーネットワーク）2,500円 ISBN-10: 4883196038 ISBN-13: 978-4883196036						

参考書	
-----	--

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J7331A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 名詞文 第3回 形容詞文 第4回 動詞の分類1 活用による分類 第5回 動詞の分類2 動詞の種類 第6回 辞書形1 辞書形の作り方 第7回 辞書形2 辞書形を用いた文型 第8回 ます形 第9回 て形1 て形の作り方・意味 第10回 て形2 て形を用いた文型 第11回 た形1 た形の作り方・意味 第12回 た形2 た形を用いた文型 第13回 可能形・受身形・使役形 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくこと。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで解いたり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、授業事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・ 課題、試験などの総合評価とする。 ・ 小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目							
科目名	日本語教授法応用A							
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバー	J7331A	
学期	前期／1st semester		曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。							
授業の概要	日本語教育に必要な実践的知識と技能を学ぶ。日本語の文法・表記・音声などの基礎知識を踏まえて、それを外国語として教授する方法を具体的・実践的に学ぶ。初級の文型教育の特徴など教材研究をしながら、「外国語としての日本語」を非母語話者にどのように教授するのか、外国語教育とは何か違うのかという視点を獲得していく。この授業では特に「日本語の文法」の側面に注目し、それを外国語としてとらえた時どのような特徴があるのか、学習者には何が問題なのかを考えていく。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定しているので積極的な参加を望む。 シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。							
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】 ③ 日本語学習者と交流し、世界から見た日本を知ることができる。【汎用的技能】							
授業計画	第1回 はじめに 第2回 名詞文 第3回 形容詞文 第4回 動詞の分類1 活用による分類 第5回 動詞の分類2 動詞の種類 第6回 辞書形1 辞書形の作り方 第7回 辞書形2 辞書形を用いた文型 第8回 ます形 第9回 て形1 て形の作り方・意味 第10回 て形2 て形を用いた文型 第11回 た形1 た形の作り方・意味 第12回 た形2 た形を用いた文型 第13回 可能形・受身形・使役形 第14回 留学生との交流授業（日程が変わることもある） 第15回 まとめ及び到達度確認							
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくること。（学習時間90分）							
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで解いたり、ディスカッションを行う。 グループワークの報告をふまえ、授業事項について解説・講義を行う。							
評価基準と評価方法	・ 課題、試験などの総合評価とする。 ・ 小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。							
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。							
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3							
参考書	授業の中で紹介する。							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J7331B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。日本語文法を分析することから、よく似た文法の使い分けや、学習者に教授するときの注意点などを考える。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとるあげる。年少者への日本語教育、国語教育、母語習得、継承言語など日本語教育をとりまく様々な問題点にもふれる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 可能形 第3回 受身形・使役形 第4回 条件1 と・ば 第5回 条件2 たら・なら・ても 第6回 自動詞 第7回 他動詞 第8回 テンス1 る形・た形 第9回 テンス2 従属節のテンス 第10回 アスペクト1 アスペクトの用法 第11回 アスペクト2 従属節のアスペクト 第12回 モダリティ1 モダリティに関わる表現 第13回 モダリティ2 いろいろなモダリティ 第14回 終助詞 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくこと。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで行ったり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・ 課題、試験などの総合評価とする。 ・ 小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法応用B						
担当教員	山極 美奈子					科目ナンバー	J7331B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語の視点から日本語を見る経験は、日本語教育だけでなく、異文化間コミュニケーションの場でも活かせるものである。自分自身の言語や文化への知識を増やしなが、日本語教育に必要な知識を深めることをテーマとする。						
授業の概要	多様化する学習者に対応できる実践的な知識と技能を学ぶ。日本語文法を分析することから、よく似た文法の使い分けや、学習者に教授するときの注意点などを考える。「話す」「聞く」「読む」「書く」の4技能の指導方法、誤用分析などを通して、中間言語研究への入門も行う。また、学習者の母語別の問題点の指導法などもとられる。授業の中で留学生との合同授業を行うこともある。シラバスに示したペースはあくまで目安であり、興味や理解度に応じて変わることがある。						
到達目標	① 日本語の文法の仕組みやルールに対する知識を学ぶことができる。【知識・理解】 ② よく似た文法の違いを日本語を母語としない人に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 はじめに 第2回 可能形 第3回 受身形・使役形 第4回 条件1 と・ば 第5回 条件2 たら・なら・ても 第6回 自動詞 第7回 他動詞 第8回 テンス1 る形・た形 第9回 テンス2 従属節のテンス 第10回 アスペクト1 アスペクトの用法 第11回 アスペクト2 従属節のアスペクト 第12回 モダリティ1 モダリティに関わる表現 第13回 モダリティ2 いろいろなモダリティ 第14回 終助詞 第15回 まとめと到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で学んだことのまとめと授業で取り上げた内容に関する課題や問題をやってくこと。（学習時間90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、課題をグループワークで行ったり、ディスカッションを行う。グループワークの報告をふまえ、重要事項について解説・講義を行う。						
評価基準と評価方法	・ 課題、試験などの総合評価とする。 ・ 小テストを含めてテストは必ず受けること。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40% 期末試験は授業内で取り扱った問題、課題、プリント、教科書などから出される。						
履修上の注意	日本語教授法基礎ABは学んでいるものとする。 自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。 4/5以上出席がないと試験がうけられない可能性がある。						
教科書	『書き込み式でよくわかる 日本語教育文法講義ノート』アルク ISBN978-4-7573-1399-3						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバー	J7212A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回:日本語教育入門 第2回:日本語教育概説1 世界と日本 第3回:日本語教育概説2 異文化接触 第4回:コースデザイン 第5回:シラバス 第6回:外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回:外国語教授法2 TPR 第8回:外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回:外国語教授法4 サイレント・ウェイ 第10回:外国語教授法5 OPI 第11回:外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回:日本語のテスト 第13回:評価法(テストの作り方) 第14回:留学生との交流授業(日程が変わることもある) 第15回:まとめ及び到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間:90分) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。(学習時間90分)						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性はある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	「日本語教育 よくわかる教授法」小林ミナ(2019)アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎A						
担当教員	尾形 文					科目ナンバー	J7212A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。日本語学習者が必要としていること、また学習者の背景を踏まえながら日本語教育の基礎知識について学んでいく。日本語教師が常に直面する異文化コミュニケーションについても実際の教育現場を通して考えていきたい。さまざまな教授法、コースデザインなどについて述べる。また、このクラスでは留学生との交流授業も予定されており、場合によっては学外の施設に見学に行く場合もある。						
到達目標	①代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身に付け説明できる。【知識・理解】 ②交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回:日本語教育入門 第2回:日本語教育概説1 世界と日本 第3回:日本語教育概説2 異文化接触 第4回:コースデザイン 第5回:シラバス 第6回:外国語教授法1 オーディオ・リンガル・メソッド 第7回:外国語教授法2 TPR 第8回:外国語教授法3 コミュニカティブ・アプローチ 第9回:外国語教授法4 サイレント・ウェイ 第10回:外国語教授法5 OPI 第11回:外国語教授法6 ナチュラル・アプローチ 第12回:日本語のテスト 第13回:評価法(テストの作り方) 第14回:留学生との交流授業(日程が変わることもある) 第15回:まとめ及び到達度確認						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業前準備学習:各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習(学習時間:90分) 授業後学習:授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。(学習時間90分)						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。提出物:10% 授業参加・積極性:50% 期末試験あるいはレポート:40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性はある。第1回目の授業で連絡先を公表するので、必ず出席すること。						
教科書	「日本語教育 よくわかる教授法」小林ミナ(2019)アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	岡田 裕子					科目ナンバー	J7212B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身につける。【知識・理解】 交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1 「読解」「聴解」 第3回：教科書研究2 「作文」「会話」 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性もある。						
教科書	「日本語教育 よくわかる教授法」小林ミナ（2019）アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語教授法基礎B						
担当教員	尾形 文					科目ナンバ－	J7212B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	外国人に対する日本語指導、つまり日本語教育の基礎的な知識の導入と実践に対応できる柔軟な思考を養う。						
授業の概要	日本語を外国語として教えるとはどういうことか、について考える。具体的には、言語教育について、「授業の計画と実施」という視点から考察、日本語教育におけるコミュニケーション教育や異文化理解と真理について学んだ後、言語習得と発達について考えていきたい。さまざまな背景を持つ学習者、年少者への日本語教育、また多様化する教材と教材分析などが主な項目となる。また、授業の中で留学生との交流授業が行われる場合があるので、積極的な参加を望む。						
到達目標	代表的な外国語教授法に関する基礎的な知識及び日本語指導上不可欠な文法的知識を身につける。【知識・理解】 交流授業を通して異文化コミュニケーションスキルを身につける。【汎用的技能】						
授業計画	第1回：日本語学習者について 第2回：教科書研究1「読解」「聴解」 第3回：教科書研究2「作文」「会話」 第4回：教科書と教材・教具について 第5回：「聞く」「話す」指導法 1 第6回：「聞く」「話す」指導法 2 第7回：「聞く」「話す」指導法 3 第8回：「読む」「書く」指導法 1 第9回：「読む」「書く」指導法 2 第10回：「読む」「書く」指導法 3 「作文」 第11回：初級の指導について 第12回：中級の指導について 第13回：上級の指導について 第14回：中級・上級の指導法 まとめ 第15回：技能別指導法 まとめ 及び 到達度確認						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	業前準備学習：各回授業で扱う教科書の当該箇所の予習（学習時間：90分） 授業後学習：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。言語教育で使う専門用語が多いので、言葉の意味内容を理解できるようにしておくこと。（学習時間：90分）						
授業方法	基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。						
評価基準と評価方法	課題、試験などの総合評価とする。 提出物：10% 授業参加・積極性：50% 期末試験あるいはレポート：40%						
履修上の注意	自分自身の外国語学習や外国人とのコミュニケーションの経験を参考に積極的に意見を出して欲しい。なお授業の一環として学外見学・研修の可能性はある。						
教科書	「日本語教育 よくわかる教授法」小林ミナ（2019）アルク ISBN 978-4757433175						
参考書	「日本語教育能力検定試験に合格するための基礎知識」岡田英夫 アルク ISBN978-4-7574-1011-4						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語音韻史／日本語史A						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J73150
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	古代日本語の音声・音韻および文字・表記						
授業の概要	音と文字の関係を示したのち、音声と音韻の差異を教授する。 更に、日本語の文字・表記の歴史に解説する。						
到達目標	(1) 音と文字の関係を掴む。 (2) 音声と音韻の差異を掴む。 (3) 日本語の文字・表記の歴史に関する知識を得る。 (4) 学説が必ずしも定まっていないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 音声から文字への転写 03: 文字から音声の推定 04: 「日本への漢字伝来」の講読 05: 「音仮名による音節表記」の講読 06: 「和文の成立」の講読 07: 「音訓の交用」の講読 08: 漢文と和文との違い 09: 音読みと訓読みとの違い 10: 「七世紀後半における散文の和文表記」の講読 11: 「歌の文字化」の講読 12: 「万葉仮名文から仮名文へ」の講読 13: 『万葉集』の表記法 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 教科書熟読：各章少なくとも2時間は要する。 (2) 論文読解：15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 講読資料作成：少なくとも4時間は要する。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義。板書を積極的に活用する。授業内課題を毎回与え、学生から得た正答や名案を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の課題：40点 試験：60点						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	沖森 卓也（2003）『日本語の誕生：古代の文学と表記』、吉川弘文館						
参考書	樺島 忠夫（1979）『日本の文字：表記体系を考える』（岩波新書・黄版75）、岩波書店 小松 茂美（1968）『かな：その成立と変遷』（岩波新書・青版679）、岩波書店 服部 四郎（1951）『音声学』（岩波全書131）、岩波書店 服部 四郎 [1951]（1979）『新版 音韻論と正書法』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	黒木 邦彦・池谷 知子					科目ナンバー	J01020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的な知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。（知識・理解（１））						
授業計画	《池谷担当》 第1回 日本語教育のイントロダクション 第2回 世界の言語と日本語 第3回 日本語の文字1（ひらがな・カタカナ） 第4回 日本語の文字2（漢字） 第5回 日本語の語彙1（和語・漢語） 第6回 日本語の語彙2（外来語・和製英語・混種語） 第7回 まとめと日本語教育の復習テスト 《黒木担当》 第8回 日本語のイントロダクション 第9回 日本語の音声・音韻1（子音・母音） 第10回 日本語の音声・音韻2（アクセント・イントネーション） 第11回 日本語の文法1（学校文法） 第12回 日本語の文法2（現代の文法研究の考え方） 第13回 日本語のバリエーション1（地域方言） 第14回 日本語のバリエーション2（社会方言） 第15回 まとめと日本語の復習テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。（学習時間：120分） 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。（学習時間：120分） 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 ・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20% ※平常点はリアクションペーパーや授業態度によって総合的に判断する。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟（2018）『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN：978-4866391915 藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN：978-4757605411 野田尚史・野田春美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN：978-4469213621						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門						
担当教員	田附 敏尚・池谷 知子					科目ナンバー	J01020
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。（知識・理解（１））						
授業計画	《田附担当》 第1回 日本語のイントロダクション 第2回 日本語の音声・音韻1（子音・母音） 第3回 日本語の音声・音韻2（アクセント・イントネーション） 第4回 日本語の文法1（学校文法） 第5回 日本語の文法2（現代の文法研究の考え方） 第6回 日本語のバリエーション1（地域方言） 第7回 日本語のバリエーション2（社会方言） 第8回 まとめと日本語の復習テスト 《池谷担当》 第9回 日本語教育のイントロダクション 第10回 世界の言語と日本語 第11回 日本語の文字1（ひらがな・カタカナ） 第12回 日本語の文字2（漢字） 第13回 日本語の語彙1（和語・漢語） 第14回 日本語の語彙2（外来語・和製英語・混種語） 第15回 まとめと日本語教育の復習テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次回の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。（学習時間：120分） 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。（学習時間：120分） 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性はある。これらの活動も評価対象になる。 ・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20% ※平常点はリアクションペーパーや授業態度によって総合的に判断する。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟（2018）『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN：978-4866391915 藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN：978-4757605411 野田尚史・野田春美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN：978-4469213621						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語入門B						
担当教員	田附 敏尚・池谷 知子					科目ナンバー	
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	ことばの研究入門						
授業の概要	高校までの国語から、大学における日本語研究への橋渡しとして、日本語教育の視点も取り入れながら、日本語について客観的に観察・検討し、それによって自らのことばへの関心を引き出す。また、その中で日本語の音声・音韻、文字、語彙、文法等の研究に関するごく基礎的な知識を身につける。						
到達目標	日本語・日本語教育の諸研究に関する基礎的知識を身につけ、それらについての説明ができるようになる。（知識・理解（１））						
授業計画	《田附担当》 第1回 日本語のイントロダクション 第2回 日本語の音声・音韻1（子音・母音） 第3回 日本語の音声・音韻2（アクセント・イントネーション） 第4回 日本語の文法1（学校文法） 第5回 日本語の文法2（現代の文法研究の考え方） 第6回 日本語のバリエーション1（地域方言） 第7回 日本語のバリエーション2（社会方言） 第8回 まとめと日本語の復習テスト 《池谷担当》 第9回 日本語教育のイントロダクション 第10回 世界の言語と日本語 第11回 日本語の文字1（ひらがな・カタカナ） 第12回 日本語の文字2（漢字） 第13回 日本語の語彙1（和語・漢語） 第14回 日本語の語彙2（外来語・和製英語・混種語） 第15回 まとめと日本語教育の復習テスト						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：授業計画に従って、次の授業内容について図書館・インターネット等で下調べをする。（学習時間：120分） 授業後：授業時やmanaba等で復習のテストを行うことがあるので、授業で学んだことをふまえて整理すること。（学習時間：120分） 図書館の学科コーナーにある日本語に関する初学者向けの文献をできるだけ多く読んでほしい。						
授業方法	・基本的には講義形式だが、ミニ発表やグループワークの可能性もある。これらの活動も評価対象になる。 ・manabaを用いた小テスト・レポート等の課題を課すことがある。また、授業時にも小テスト等を行う。						
評価基準と評価方法	平常点40%、中間および期末試験40%、小テスト・課題20% ※平常点はリアクションペーパーや授業態度によって総合的に判断する。						
履修上の注意	自分の覚え書きとしてのノートを作ることを心がけてほしい（大学の学びの基本です）。ディスカッションや作業には積極的に参加すること。						
教科書	適宜プリントを配布する。						
参考書	今井新悟（2018）『いちばんやさしい日本語教育入門』アスク ISBN：978-4866391915 藤田保幸（2010）『緑の日本語学教本』和泉書院 ISBN：978-4757605411 野田尚史・野田春美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店 ISBN：978-4469213621						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバ－	J0307A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態に迫る。日本語教材を様々な角度から分析し、そこ日本語母語話者の話す日本語がどのように整理されているのか、またその言語表現の背後にある日本語使用と意識について、考えていく。演習はそれぞれが担当箇所を読み、まとめ、口頭発表する形式で進める。留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」に対する深い知識を身につけることができる。【知識・理解】 ② 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 第一演習についての位置づけ 第2回 日本語文法への招待 第3回 日本語の品詞 第4回 名詞述語分と形容詞述語 第5回 語から文へ――助詞 第6回 文の要素のとりたて――焦点化 第7回 ハとガの話――主語か述語か 第8回 動詞述語 第9回 ヴォイス1――受身 第10回 ヴォイス2――使役 第11回 ヴォイス3――授受 第12回 ヴォイスの選択 第13回 テンス――述語のル形とタ形 第14回 アスペクト1――ル形・タ形とテイルの形 第15回 アスペクト2――テアル・テオク・テシマウ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べること（学習時間90分） 事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること（学習時間90分） 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習120分）						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それに関するディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（50％）発表（20％）レポート（30％） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけではなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円）ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J0307A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	普段の生活の中では気にならなくても、注意深く観察すると、身の回りには不思議なことばがあふれているものである。この第一演習では、日常生活を送る中で触れている「身近な日本語」を取り上げ、研究の題材とする。この時、まずは「身近な日本語」の中に疑問を見出さなければはじまらないので、テキストを用いて「身近な日本語」を考える材料としたい。あることばに対して抱く「なんか変だ」「ちょっと気になる」「自分の使い方とは違う」等々の直感を、データ収集とデータ分析を通して、研究のレベルまで発展させていってほしい。						
到達目標	・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができる						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 発表の方法 第3回 日本語に関するテキストの講読①（第1章） 第4回 日本語に関するテキストの講読②（第2章） 第5回 日本語に関するテキストの講読③（第3章） 第6回 日本語に関するテキストの講読④（第4章） 第7回 日本語に関するテキストの講読⑤（第5章） 第8回 日本語に関するテキストの講読⑥（第6章） 第9回 日本語に関するテキストの講読⑦（第7章） 第10回 発展演習（文字表記） 第11回 発展演習（文法） 第12回 研究計画の立て方 第13回 各自の研究計画の検討 第14回 予備調査の実施 第15回 予備調査結果の報告						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	次回講読分の予習が必要。疑問点等チェックして授業に臨むこと。（学習時間120分） またそれとともに、各自が研究計画をすることになるため、その研究の題材探しを行うこと。（学習時間120分）						
授業方法	講読形式および演習形式 講読については、各回の担当者を決めて、担当者が要約を発表。その後、その内容についてディスカッションする。 演習については、課題について全員で調査や分析を行う。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（テキストの内容に関する疑問点のあぶりだしと質疑応答）60%、レポート40%						
履修上の注意	講読、テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	定延 利之、茂木 俊伸、金田 純平、森 篤嗣（2012）『私たちの日本語』朝倉書店 ISBN-10: 4254510411 ISBN-13: 978-4254510416						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J0307A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の演習						
授業の概要	平安時代の歌物語である『大和物語』を演習する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 本演習では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。						
到達目標	平安時代における歌物語や『大和物語』の文学史的特徴について説明できる。【知識・理解】 『大和物語』のだいたいの口語訳ができる。【知識・理解】 『大和物語』の特徴を分かりやすく説明することができる。【汎用的技能】 古典文学や日本文化について興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の演習 第4回 第二段の演習 第5回 第三段の演習 第6回 第四段の演習 第7回 第八段の演習 第8回 第二十五段の演習 第9回 第二十七段の演習 第10回 第二十九段の演習 第11回 第三十段の演習 第12回 第四十一段の演習 第13回 第四十二段の演習 第14回 第四十五段の演習 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：『大和物語』注釈書や文献を読んで、本文読解をする。 古文読解のための基礎的事項について学習する。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた箇所の読解の確認をし、文法事項を整理する。 『大和物語』に描かれた平安時代の暮らしや文化について、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（発表および質疑応答：プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	発表内容及び取り組み（60%） 小テスト（20%） 演習に対する取り組みなど平常点（20%）						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。特に無断欠席は厳禁。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習A						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J0307A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の演習						
授業の概要	平安時代の歌物語である『大和物語』を演習する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 本演習では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。						
到達目標	平安時代における歌物語や『大和物語』の文学史的特徴について説明できる。【知識・理解】 『大和物語』のだいたいの口語訳ができる。【知識・理解】 『大和物語』の特徴を分かりやすく説明することができる。【汎用的技能】 古典文学や日本文化について興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 平安時代の物語文学の概観についての講義 第2回 『大和物語』についての講義 第3回 第一段の演習 第4回 第二段の演習 第5回 第三段の演習 第6回 第四段の演習 第7回 第八段の演習 第8回 第二十五段の演習 第9回 第二十七段の演習 第10回 第二十九段の演習 第11回 第三十段の演習 第12回 第四十一段の演習 第13回 第四十二段の演習 第14回 第四十五段の演習 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：『大和物語』注釈書や文献を読んで、本文読解をする。 古文読解のための基礎的事項について学習する。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた箇所の読解の確認をし、文法事項を整理する。 『大和物語』に描かれた平安時代の暮らしや文化について、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（発表および質疑応答：プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	発表内容及び取り組み（60%） 小テスト（20%） 演習に対する取り組みなど（20%）						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。特に無断欠席は厳禁。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J0307B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	日本語教科書の教材分析を通して日本語を客観的に整理し、日本語母語話者の使っている日本語の実態を新たな観点から捉え直す作業をする。演習形式で進める。後半は4年次の卒業論文なども視野に入れ、自分自身のテーマを見つけていくための演習・訓練となる。 留学生との合同授業を行うこともある。						
到達目標	① 母語である「日本語」に対する深い知識を身につけることができる。【知識・理解】 ② 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 夏休みのレポートの発表 第2回 夏休みのレポートの発表 第3回 イクとクル、テイクとテクル 第4回 単文から複文へ～従属節の色々 第5回 連体修飾節 第6回 時を表す従属節 第7回 条件を表す条件節 第8回 出来事の関係を表す従属節 第9回 モダリティーの表現 第10回 出来事に関連づけ 第11回 終助詞 第12回 待遇表現――敬語 第13回 指示語 第14回 文から談話へ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：予習として該当する部分を読んで分からない言葉を調べること（学習時間90分） 事後学習：各課の終わりにあるまとめの問題をやること（学習時間90分） 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。（授業外学習120分）						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それに関するディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（50％）発表（20％）レポート（30％） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけではなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	近藤安月子（2008）『日本語教師を目指す人のための日本語学入門』研究社（1800円） ISBN978-4-327-38452-4						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J0307B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを見つめる						
授業の概要	前期に引き続き現代日本語におけるさまざまな問題点を知るために、日本語学のテキストを講読する。また、前期に定めた各自の研究テーマにしたがって、調査・資料収集などを行い、各自が演習形式で発表し、討論を行う。						
到達目標	・日本語の多様性について理解を深め、そこから適切な調査対象を見つけることができるようになる。（知識・理解(1)） ・基本的な知識と手法を用いてことばを分析し、発表できるようになる。（汎用的技能(1)） ・テキストの的確な要約ができるようになる。（汎用的技能(1)）						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 調査結果のまとめ方 第3回 日本語に関するテキストの講読①（第8章） 第4回 日本語に関するテキストの講読②（第9章） 第5回 日本語に関するテキストの講読③（第10章） 第6回 日本語に関するテキストの講読④（第11章） 第7回 日本語に関するテキストの講読⑤（第12章） 第8回 日本語に関するテキストの講読⑥（第13章） 第9回 日本語に関するテキストの講読⑦（第14章） 第10回 発展演習（コーパス検索） 第11回 個人別演習発表 第12回 個人別演習発表 第13回 個人別演習発表 第14回 個人別演習発表 第15回 個人別演習発表・まとめ（卒業論文に向けて）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前：次回講読分の予習が必要。疑問点等をチェックして授業に臨む。（学習時間：120分） 授業後：授業で取り上げた内容の要点と重要箇所の確認・整理。（学習時間：120分） また、各自が研究計画をすることになるため、身近な問題としてことばに敏感であってほしい。						
授業方法	講読形式および演習形式 講読については、各回の担当者を決めて、担当者が要約を発表。その後、その内容についてディスカッションする。 演習については、個別の課題について調査や分析を行い、発表する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価（テキストの内容に関する疑問点のあぶりだしと質疑応答）60%、レポート40%						
履修上の注意	講読、テーマ発表に際して、発表者には入念な準備を、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	定延 利之，茂木 俊伸，金田 純平，森 篤嗣（2012）『私たちの日本語』朝倉書店 ISBN-10：4254510411 ISBN-13：978-4254510416						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J0307B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の演習						
授業の概要	平安時代の歌物語である『大和物語』を演習する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 本演習では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。						
到達目標	平安時代における歌物語や『大和物語』の文学史的特徴について説明できる。【知識・理解】 『大和物語』のだいたいの口語訳ができる。【知識・理解】 『大和物語』の特徴を分かりやすく説明することができる。【汎用的技能】 古典文学や日本文化について興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『大和物語』についての講義 第2回 第五十八段の演習 第3回 第七十段の演習 第4回 第七十六段の演習 第5回 第七十七段の演習 第6回 第九十一段の演習 第7回 第九十九段の演習 第8回 第百段の演習 第9回 第百四十七段前半の演習 第10回 第百四十七段後半の演習 第11回 第百四十九段前半の演習 第12回 第百四十九段後半の演習 第13回 第百五十六段の演習 第14回 第百六十一段の演習 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：『大和物語』注釈書や文献を読んで、本文読解をする。 古文読解のための基礎的事項について学習する。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた箇所の読解の確認をし、文法事項を整理する。 『大和物語』に描かれた平安時代の暮らしや文化について、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（発表および質疑応答：プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	発表内容及び取り組み（60%） 小テスト（20%） 演習に対する取り組みなど平常点（20%）						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。特に無断欠席は厳禁。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編（新典社） 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第一演習B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J0307B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	『大和物語』の演習						
授業の概要	平安時代の歌物語である『大和物語』を演習する。 『大和物語』百七十三章段のうち、百四十章段あまりの前半は当代（平安時代前期）の人々の歌語りの集積であり、後半は古代の伝承を中心とした昔語りの集積である。 本演習では、それらの特質を考察するとともに、それぞれの章段に現れている、恋や友情、宮廷生活や夫婦のあり方、装束や住まいなど、様々な面から平安貴族の生活の様相を探究する。						
到達目標	平安時代における歌物語や『大和物語』の文学史的特徴について説明できる。【知識・理解】 『大和物語』のだいたいの口語訳ができる。【知識・理解】 『大和物語』の特徴を分かりやすく説明することができる。【汎用的技能】 古典文学や日本文化について興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 『大和物語』についての講義 第2回 第五十八段の演習 第3回 第七十段の演習 第4回 第七十六段の演習 第5回 第七十七段の演習 第6回 第九十一段の演習 第7回 第九十九段の演習 第8回 第百段の演習 第9回 第百四十七段前半の演習 第10回 第百四十七段後半の演習 第11回 第百四十九段前半の演習 第12回 第百四十九段後半の演習 第13回 第百五十六段の演習 第14回 第百六十一段の演習 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：『大和物語』注釈書や文献を読んで、本文読解をする。 古文読解のための基礎的事項について学習する。（1時間） 授業後学習：授業で取り上げた箇所の読解の確認をし、文法事項を整理する。 『大和物語』に描かれた平安時代の暮らしや文化について、さらに探究する。（2時間）						
授業方法	講義と演習（発表および質疑応答：プレゼンテーションおよびディスカッション）						
評価基準と評価方法	発表内容及び取り組み（60%） 小テスト（20%） 演習に対する取り組みなど平常点（20%）						
履修上の注意	遅刻、欠席は厳に慎むこと。特に無断欠席は厳禁。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	校注大和物語 柳田忠則編(新典社) 978-4-7879-0805-6						
参考書	『大和物語全釈』森本茂（大学堂書店） 新編日本古典文学全集『竹取物語 伊勢物語 大和物語 平中物語』高橋正治（小学館） 『大和物語評釈』今井源衛（笠間書院） 講談社学術文庫『大和物語（上）・（下）』雨海博洋（講談社）						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J0408A
学期	前期／1st semester	曜日・時間	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	夏目漱石の世界						
授業の概要	夏目漱石の作品を読む。適宜、他の諸作家の諸作品、文学思潮等にも言及することにした。それぞれの内なる関心に応じて、様々な論点を用意し、それらを有機的に組み合わせたディスカッションをなす。						
到達目標	文学作品を豊かな感受性をもって読むことを通じて、生涯にわたって学び続ける姿勢を保持することができる。 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 夏目漱石の世界 第3回 『倫敦塔』 第4回 『カーライル博物館』 第5回 『幻影の盾』 第6回 『薙露行』 第7回 『琴のそら音』 第8回 『一夜』 第9回 坊っちゃん、坊っちゃん、坊ちゃん 第10回 「漱石」の署名 第11回 初出誌と初刊本 第12回 新体詩と俳句 第13回 見世物と芝居 第14回 汽車と汽船 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した関連文献を、あらかじめ精読しておくこと。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ用意してきたものを各自が授業時間中に適宜、提示し、それらの差異を確認した上で、より良き結論に向けて討論する作業を継続していく演習形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	夏目漱石全集2 定価：本体800円+税 ちくま文庫 ISBN 4-480-02162-0						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J0408A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなせているからです。 そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】 ② 卒論につながるテーマを見つけすることができる。【汎用的技能】 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 第2演習についての位置づけについての概説 第2回 語彙分析の方法について 第3回 語彙分析の発表と質疑応答1 第4回 語彙分析の発表と質疑応答2 第5回 語彙分析の発表と質疑応答3 第6回 アンケート調査の方法について 第7回 用例採取の方法論について 第8回 会話分析の方法について 第9回 会話分析の発表と質疑応答1 第10回 会話分析の発表と質疑応答2 第11回 会話分析の発表と質疑応答3 第12回 用例分析の方法 第13回 用例分析の発表と質疑応答1 第14回 用例分析の発表と質疑応答2 第15回 前期のまとめとレポートについての指示						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	事前学習：課された資料を読むでくこと（学習時間90分） 事後学習：授業中にわからなかったことやキーワードについて調べる（学習時間90分） 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。 発表が当たっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。 それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それ続いてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業参加度（50％）発表（20％）レポート（30％） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性はある。						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J0408A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを研究へとつなげる						
授業の概要	第一演習では「身近な日本語」を取り上げ、それが研究対象となることを、講読（理論）と演習（実践）を通して学んできた。第二演習では、実際に自分自身で「身近な日本語」を研究する段階に入る。各自の興味・関心にしたがって、前期は論文を読み、その要約を発表する。後期は実際に調査し、分析した結果を発表する。この一連の内容は、できるだけ卒論につながるようなものを目指す（前期内容は「先行研究」、後期内容は「結果・考察」）ため、研究テーマの候補は早い段階から探しておくこと。						
到達目標	・テキストの的確な要約ができるようになる。（汎用的技能(1)） ・先行研究に対して批判的な目を持ち、問題点を見つけることができるようになる。（知識・理解(1)および汎用的技能(1)） ・他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。（汎用的技能(3)）						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 近接領域の論文の検討 第3回 先行研究の読み方・まとめ方 第4回 個人別演習発表① 第5回 個人別演習発表② 第6回 個人別演習発表③ 第7回 個人別演習発表④ 第8回 個人別演習発表⑤ 第9回 個人別演習発表⑥ 第10回 個人別演習発表⑦ 第11回 個人別演習発表⑧ 第12回 個人別演習発表⑨ 第13回 個人別演習発表⑩ 第14回 個人別演習発表⑪ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：120分） また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：120分）						
授業方法	演習：個別の課題について調査や分析を行い、発表する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60％と発表40％						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習A						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J0408A
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（江戸～明治時代）について理解する。 書、絵画などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	①日本の美術の展開（江戸～明治時代）を理解する。【知識・理解】 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	1) ガイダンス（演習の進め方、注意事項について） 2) 明治時代① 3) 明治時代② 4) 明治時代③ 5) 明治時代④ 6) 明治時代⑤ 7) 大正時代① 8) 大正時代② 9) 大正時代③ 10) 昭和時代① 11) 昭和時代② 12) 論文の書き方① 13) 論文の書き方② 14) 各自の関心事について小発表①～卒業論文に向けて 15) 各自の関心事について小発表②、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。（学習時間90分）						
授業方法	講読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20%：受講態度、討議への参加姿勢など レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、「各自の関心事について小発表～卒業論文に向けて」の報告書を展示する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	青木 稔弥					科目ナンバー	J0408B
学期	後期／2nd semester	曜日・時間	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	『坊ちやん』の世界						
授業の概要	夏目漱石『坊ちやん』を読む。適宜、漱石の他の作品にも言及する。それぞれの内なる関心に応じて、様々な論点を用意し、それらを有機的に組み合わせたディスカッションをなす。						
到達目標	文学作品を豊かな感受性をもって読むことを通じて、生涯にわたって学び続ける姿勢を保持することができる。 【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 都会と田舎 第3回 江戸っ子 第4回 下女と女中 第5回 頑固親父 第6回 西洋館 第7回 士族・旗本 第8回 下宿と寄宿舎 第9回 宿直と授業 第10回 あだな 第11回 二十五万石の城下町 第12回 教育と立身出世 第13回 物理と数学 第14回 簡単と単簡 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に提示した関連文献を、あらかじめ精読しておくこと。自宅、図書館等での勉学に80時間程度は必要であろう。						
授業方法	あらかじめ用意してきたものを各自が授業時間中に適宜、提示し、それらの差異を確認した上で、より良き結論に向けて討論する作業を継続していく演習形式。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取組状況等の評価80%、レポート20%						
履修上の注意	積極的な授業参加が必要						
教科書	夏目漱石全集2 定価：本体800円+税 ちくま文庫 ISBN 4-480-02162-0						
参考書	適宜、指示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	池谷 知子					科目ナンバー	J0408B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	外国語として出会う「日本語」						
授業の概要	母語である日本語を「外国語として見る」ことは、それほど簡単なことではありません。なぜなら、私たちは無意識のうちに母語としての日本語を自由使いこなせているからです。 そこで、日本語の話し言葉を分析したり、日本語学習者の間違いや、日本語に対する疑問について考えることを通じて、私たちが無意識に使っている日本語について客観的に考えていきます。 第2演習は卒業研究のための演習です。授業中にふと疑問に思ったことはできるだけノートにとっておくことをおすすめします。「きれい」と「美しい」は何が違うんだろうというような、小さな疑問でも後からじっくり考えるためのヒントとなります。留学生との合同授業を行う場合もあります。						
到達目標	① 母語である「日本語」を客観的に分析することができる。【汎用的技能】 ② 卒論につながるテーマを見つけることができる。【汎用的技能】 ③ 参考文献や資料をさがすことができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 夏期レポートの講評と問題点の発見 1 第2回 夏期レポートの講評と問題点の発見 2 第3回 夏期レポートの講評と問題点の発見 3 第4回 用例採取の方法 1 第5回 用例採取の方法 2 第6回 各自のテーマの発表と質疑応答 1 第7回 各自のテーマの発表と質疑応答 2 第8回 各自のテーマの発表と質疑応答 3 第9回 各自のテーマの発表と質疑応答 4 第10回 各自のテーマの発表と質疑応答 5 第11回 各自のテーマの発表と質疑応答 6 第12回 各自のテーマの発表と質疑応答 7 第13回 各自のテーマの発表と質疑応答 8 第14回 各自のテーマの発表と質疑応答 9 第15回 総まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	前学習：課された資料を読んでくること（学習時間90分） 事後学習：授業中にわからなかったことやキーワードについて調べること（学習時間90分） 発表担当者は図書館などを利用して、積極的に調べハンドアウトを作成すること。 発表があたっている時は、わかりやすい資料を作成しプレゼンテーションを行う。それ以外にも、自分の選んだ卒業論文のテーマについては、図書館などを利用して積極的に調べ、卒論作成につなげていくこと。						
授業方法	講義と各自の発表（プレゼンテーション）の後、それ続いてディスカッションを行う。						
評価基準と評価方法	授業態度（50％）発表（20％）レポート（30％） 授業態度：授業への取り組み、グループ討議の参加度、発表に対するコメントなどにより総合的に評価する。 発表：発表態度、与えられたテーマについての内容、取り組みなどを評価する。						
履修上の注意	・出席するだけでなく、積極的な授業参加望む。 ・欠席するときは必ず事前に連絡すること。 ・4/5以上出席がないと、受講資格を失う。 なお、授業の一環として留学生との交流や、学外見学・研修の可能性がある。						
教科書	適宜ハンドアウトを配布						
参考書	授業の中で紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J0408B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	身の回りのことばを研究へとつなげる						
授業の概要	第一演習では「身近な日本語」を取り上げ、それが研究対象となることを、講読（理論）と演習（実践）を通して学んできた。第二演習では、実際に自分自身で「身近な日本語」を研究する段階に入る。各自の興味・関心にしたがって、前期は論文を読み、その要約を発表する。後期は実際に調査し、分析した結果を発表する。この一連の内容は、できるだけ卒論につながるようなものを目指す（前期内容は「先行研究」、後期内容は「結果・考察」）ため、研究テーマの候補は早い段階から探しておくこと。						
到達目標	・ 目的に応じた的確な分析をすることができるようになる。（知識・理解(1)および汎用的技能(1)） ・ 他人の発表に際し、積極的に関心を持って質問や意見を言うことができるようになる。（汎用的技能(3)）						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 調査結果のまとめ方 第3回 分析の方法 第4回 個人別演習発表① 第5回 個人別演習発表② 第6回 個人別演習発表③ 第7回 個人別演習発表④ 第8回 個人別演習発表⑤ 第9回 個人別演習発表⑥ 第10回 個人別演習発表⑦ 第11回 個人別演習発表⑧ 第12回 個人別演習発表⑨ 第13回 個人別演習発表⑩ 第14回 個人別演習発表⑪ 第15回 まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	演習形式で行うため、発表の準備が中心となる。念入りに準備すること。（授業前学習時間：120分）また、演習での討論において問題となった箇所の確認や自分の考えのまとめを、授業後に行っておくこと。（授業後学習時間：120分）						
授業方法	演習：個別の課題について調査や分析を行い、発表する。						
評価基準と評価方法	日常的な授業に対する取り組み状況等の評価60%と発表40%						
履修上の注意	演習に際して、発表者には入念な準備と、参加者には活発な討論を期待する。						
教科書	なし。						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語日本文化第二演習B						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバー	J0408B
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	4	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文化としての芸術						
授業の概要	日本の美術の展開（大正～現代）について理解する 書、絵画などの分野に注目し、日本文化について考察していく。						
到達目標	①日本の美術の展開（戦中・戦後～現代）を理解する。【知識・理解】 ②日本文化について、また各自が関心をもつ分野について自らの言葉で論じることができる。【知識・理解】【汎用的技能】						
授業計画	1) 戦中・戦後① 2) 戦中・戦後② 3) 現代① 4) 現代② 5) 日本の美術史について① 6) 日本の美術史について② 7) 日本の絵画について① 8) 日本の絵画について② 9) 日本の書について① 10) 日本の書について② 11) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて① 12) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて② 13) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて③ 14) 各自の関心事について発表～卒業論文に向けて④ 15) まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	購読テキストの予習、復習。 紹介した資料は必ず読み、さらに関心事についての資料を積極的に調査することを望む。（学習時間：90分）						
授業方法	講読、講義、演習、発表						
評価基準と評価方法	平常点20%：受講態度、討議への参加姿勢など レポート・小テスト30%：到達目標①の到達度確認 発表50%：到達目標①の到達度確認						
履修上の注意	関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。 随時確認の小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 芸術分野に関する京都や奈良への研修を予定している。 書道展を予定しており、卒業論文を展示する。						
教科書	『日本美術101－鑑賞ガイドブック』神林恒道・新関伸也（三元社）2800円＋税 ISBN978-4-88303-228-0						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本語文法史／日本語史B						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J73160
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文法に見る古典日本語と現代日本語との共通点・相違点						
授業の概要	古典日本語文法の基礎を教授したのち、言語形式に構造および単位が存在することを示す。更に、日本語文法に生じた史的变化の一端を解説する。						
到達目標	(1) 古典日本語文法の基礎を習得し、古典に対する苦手意識を解消する。 (2) 言語形式に構造および単位が存在することを知る。 (3) 日本語文法に生じた史的变化の一端を知る。 (4) 学説が必ずしも定まっていなかったことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 古典日本語と現代日本語との関係 03: 国文法とその欠陥 04: 「第2-4講 動詞 (1-3)」「6.2 助動詞の分類」の講読 05: 「第5講 受身・自発・可能」「6.1 使役」の講読 06: 「第8講 否定」の講読 07: 「第9-11講 時制 (1-3)」の講読 08: 「第11-14講 推量 (1-3)」の講読 09: 「第14講 反実仮想・意志・勧誘」「第15講 希望・疑問」の講読 10: 「第20講 格助詞」「第21講 名詞の諸問題」の講読 11: 「第18講 連体修飾」「第19講 準体句」の講読 12: 「第24-25講 複文 (1-2)」「第26講 挿入句・係り受け」の講読 13: 「第27-28講 敬語 (1-2)」の講読 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 教科書熟読：各章少なくとも2時間は要する。 (2) 古典日本語読解課題：毎回少なくとも1時間は要する。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義。板書を積極的に活用する。授業内課題を毎回与え、学生から得た正答や名案を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の課題：40点 試験：60点						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	小田 勝（2018）『読解のための古典文法教室』、和泉書院						
参考書	清瀬 義三郎 則府（1971）「連結子音と連結母音と：日本語動詞無活用論」、『國語學』86、pp. 42-56、國語學會 小田 勝（2015）『実例詳解 古典文法総覧』、和泉書院						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本書道史						
担当教員	丸山 果織					科目ナンバ－	J71490
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本の書は、中国から漢字を受容することから始まり、日本独自の美意識のもと、展開されてきた。その中で、各時代の社会的背景も大きく関わる。今日に至るまでの日本の書の変遷を理解することで、日本文化について考えていく。						
授業の概要	日本書道史を時代区分し、各時代の社会的、文化的背景をふまえ当時の書の特徴を理解する。文字を受容してから戦後現代に至るまでの日本の書について考察する。その際、具体的な作品を取り上げ、鑑賞しながら進める。						
到達目標	①日本の書の展開、各時代の書の特徴について理解することができる。【知識・理解】 ②日本の書について、各時代の社会的、文化的背景について理解したうえで、自分の言葉で論じることができる。【汎用的技能】						
授業計画	1) ガイダンス、日本書道史について 2) 漢字の伝来以前と漢字の受容 3) 奈良時代①（中国の書） 4) 奈良時代②（天平文化・万葉仮名） 5) 平安時代前期（唐様・三筆とその周辺） 6) 平安時代中期～後期①（和様・三蹟とその周辺） 7) 平安時代中期～後期②（仮名の誕生から完成） 8) 平安時代中期～後期③（仮名と古今和歌集、料紙） 9) 平安時代末期～鎌倉時代（俊成・定家、平家納経） 10) 室町時代（墨跡） 11) 安土桃山～江戸初期（寛永の三筆とその周辺） 12) 江戸時代～明治初期（御家流、文人の書） 13) 明治・大正時代（楊守敬の来日、古筆復興、毛筆廃止論） 14) 昭和初期・戦後現代 15) 今日の書の展望（ゲストスピーカーによる講義）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に紹介した資料は必ず読み、各自の関心事項に関する資料調査を行う。（学習時間：90分） 紹介した展覧会の鑑賞。						
授業方法	講義、グループワーク、ディスカッション						
評価基準と評価方法	平常点20％：授業態度 テスト50％：到達目標①の到達度確認 課題・レポート30％：到達目標②の到達度確認						
履修上の注意	随時小テストを行う。事前予告は授業中に行う。 関連する展覧会があれば美術館で鑑賞会を行うことがある。						
教科書	『決定版 日本書道史』名児耶明監修、芸術新聞社、ISBN978-4-87586-166-9 2800円＋税金 適宜プリントを配布する。						
参考書	『書学挙要一書の歴史と文化一』魚住和晃・萩信雄編、藝文書院、ISBN4-907823-03-7						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本の近現代戯曲						
担当教員	栢井 智英					科目ナンバー	J71660
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	如月小春の戯曲『DOLL』を読む。						
授業の概要	1980年代を代表する劇作家如月小春の『DOLL』を読む。戯曲を場面ごとに読んで、戯曲の構造を理解していく。そして戯曲と上演との関係も映像記録などを使って説明していく。また、テーマとなっている高校生の自殺という社会問題がどのように描かれているかの考察も行っていく。						
到達目標	舞台上演を前提とした日本の小劇場戯曲の基本的な特徴について予備知識のない人がわかるように説明できるようになる。（知識・理解） また現代社会という視点から戯曲を読み、現在の社会が抱える問題を分析して理解を深めて自分の考えを述べ、レポートを作成できる能力をつける。（汎用的技能） さらに、社会が抱える課題への関心を高め、自分でリサーチできる能力を身につける。（態度・志向性）						
授業計画	1. 作品の説明：上演記録、そしてテーマとその背景について 2. 小説と違った戯曲にある約束事についての解説 3. 第1場：場所の描写、登場人物の紹介 4. 第2場：みどりの人物描写、夢の世界の表現 5. 刑事たちと1980年代という時代の関係 6. 第3場：いづみの人物描写 優等生という苦悩、独白の役割について 7. 第4場：麻里の人物描写 高校生の受験に対する意識、将来の悩みとは 8. 第5場：京子の人物描写 大人への反抗とその理由 9. 第6場：恵子の人物描写 他人への気遣い、自己主張の難しさ 10. 第7場：海という存在についての考察 11. 第8場：刑事たちの劇における役割について 12. 第9場：「なぜ、少女たちはみずになったのか」というメッセージについての考察 13. まとめ① 象徴としての刑事たち 14. まとめ② 劇構造におけるサスペンスについて 15. まとめ③ このテーマは現代社会にも当てはまることなのかを考えてみる						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	テキストの予習。まず次に読む場面の予習は非常に大切にです。どのように舞台上で表現されているのかを想像ながら何度も読み、その想像が難しい箇所を明らかにして授業にのぞみましょう。またセリフで出てきたその時代と深く結びつく言葉をピックアップしてください。精読には1時間程度使ってくださいね。授業では時代背景についてのリサーチの課題もあります。しっかりと時間をかけて調べてください。						
授業方法	講義を中心に、映像鑑賞やディスカッションも行う。毎回授業では配役を決めてセリフを読んでもらい、少しでも演劇の雰囲気につける工夫をする。ディスカッションはグループで行い、意見をまとめて発表する形で行う。						
評価基準と評価方法	授業のディスカッションなど総合的な姿勢50% 期末のレポート50%						
履修上の注意	履修上の注意：正当な理由がないと遅刻は認めません。						
教科書	如月小春『DOLL/トロイメライ』新宿書房 2001 ISBN 4-88008-271-6 C0074						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化を学ぶ／日本文化を学ぶB						
担当教員	田中 まき					科目ナンバー	J72180
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	王朝びとの生活と文化						
授業の概要	平安時代の貴族たちがどのような邸に住み、どのような装束を身にまとい、どのような生活を送っていたのかを考察し、さらに、そこに形成されていった華やかで雅(みやび)な平安時代の文化について明らかにしたい。 本授業では、『源氏物語』や『枕草子』、また『紫式部日記』などの王朝日記に現れている王朝人の暮らしや文化について講義する。当時の貴族生活や儀礼・行事について理解しやすいよう、パソコンやDVDの画像をスクリーンに提示したりしながら解説する。						
到達目標	平安貴族の暮らしと文化について理解し、説明できる。【知識・理解】 平安貴族の暮らしと文化の特徴を具体的に説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 王朝人の住まい 第2回 男性の装束 第3回 女性の装束 第4回 装い（化粧・整髪など） 第5回 貴族の食事 第6回 信仰と生活習慣（物忌み、方違え） 第7回 貴族の宮仕え（官位官職） 第8回 通過儀礼（袴着・元服・裳着など） 第9回 恋愛と結婚 第10回 算賀・葬送 第11回 年中行事と節会（七夕・相撲節会など） 第12回 祭礼（賀茂の祭など） 第13回 貴族の教養 第14回 貴族の遊び（音楽・蹴鞠など） 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：平安時代の文化について興味を持ち、それらが扱われた資料や書籍を読む。（1時間） 授業後学習：授業で学んだ平安時代の文化や関連する事項について要点を確認、整理する。（1時間）						
授業方法	講義（平安時代の文化について考察したことについてディスカッションやプレゼンテーションにも取り組む。）						
評価基準と評価方法	期末試験 70% 小テスト 20% 取り組みに対する意欲・関心などの姿勢 10%						
履修上の注意	毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。 期末試験だけでなく、小テストも実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は試験を受ける資格がないものとする。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文化学外研修／日本語・日本文化学外研修B						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ－	J73390
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	1.0
授業のテーマ	王朝びとの装束と住まいの探究						
授業の概要	古典文学にゆかりの地を訪ねて、王朝びとの生活と文化の様相を探究する。 具体的には、京都御所や宇治源氏物語ミュージアム、平等院などを訪ねて、王朝びとの住まいについて考察し、平安京創生館で袈裟や狩装束を着装して、王朝人の装束について学習する。						
到達目標	平安時代の貴族の生活と文化について、その様相を説明できる。【知識・理解】 学習し、調査したことについて分かりやすく説明できる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 講義：学外研修についてのガイダンス 第2回 講義：王朝びとの住まいについて（「学外研修①」についての説明） 第3回 学外研修①：宇治源氏物語ミュージアム・平等院など 第4回 講義：「学外研修①」の振り返りとまとめ 第5回 講義：王朝びとの装束について（「学外研修②」についての説明） 第6回 学外研修②：京都御所・平安京創生館など 第7回 講義：「学外研修②」の振り返りとまとめ 第8回 講義：実地踏査で学んだことの調査・探究したレポート発表 第1・2・4・5・7・8回は講義 第3・6回は学外研修（授業時間外の研修）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	王朝びとの生活と文化について、書籍や図録を読んで学ぶ。（事前学習） 授業で学んだことや実地踏査で学んだことについて、さらに調べ、探究する。（事後学習）						
授業方法	講義と学外研修						
評価基準と評価方法	レポート発表 60% 小テスト 30% 授業・学外研修に対する取り組み 10%						
履修上の注意	6回の講義は月曜2時限に教室で行うが、 2回の学外研修は受講者と相談のうえ、別の日（土日の場合もある）に実施する。 寺社見学などの費用（500円程度×2回）と交通費が必要となる。						
教科書	プリントを使用する。						
参考書	適宜提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学・文化入門／日本文化入門						
担当教員	青木 稔弥・田中 まき					科目ナンバー	J01040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学・文化についての基礎						
授業の概要	日本語日本文化学科の学生として理解しておかなければならない日本文学と文化の基礎的な事柄について学ぶ。						
到達目標	日本文学と文化について基礎的な事柄について理解し、説明できる。【知識・理解】 日本文学と文化の特徴を具体的に説明することができる。【汎用的技能】 日本文学と文化に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（時代区分ほか）（田中） 第2回 干支、暦（田中） 第3回 万葉仮名、平仮名（田中） 第4回 和歌の歌体・修辞技巧（田中） 第5回 物語・語り物（田中） 第6回 能・狂言（田中） 第7回 浄瑠璃・歌舞伎（田中） 第8回 年中行事についてのレポートの発表（田中） 第9回 日本列島の歴史（青木） 第10回 口承文芸（青木） 第11回 地域の文化（青木） 第12回 郷土の文化（青木） 第13回 近代の散文（青木） 第14回 近代の韻文（青木） 第15回 出版文化・まとめ（青木）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に予め提示した事柄について調べて、レポートなどにまとめ、授業時に発表できるよう準備する。（学習時間：1時間） 授業で学んだ事柄について復習し、基礎的な事項については説明できるよう身に付ける。 また、関心のある事項については、さらに調べて探究する。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義と演習 演習としては、調べて来たことを発表するプレゼンテーションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	小文の執筆（40%） レポートとその発表（30%） 小テスト（20%） 授業中の発言など授業に対する姿勢（10%）						
履修上の注意	遅刻、欠席をしないこと。 レポートや小文の執筆だけでなく、小テストも実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は単位修得の資格はないものとする。						
教科書	適宜、プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学・文化入門／日本文化入門						
担当教員	青木 稔弥・田中 まき					科目ナンバー	J01040
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本文学・文化についての基礎						
授業の概要	日本語日本文化学科の学生として理解しておかなければならない日本文学と文化の基礎的な事柄について学ぶ。						
到達目標	日本文学と文化について基礎的な事柄について理解し、説明できる。【知識・理解】 日本文学と文化の特徴を具体的に説明することができる。【汎用的技能】 日本文学と文化に対して興味・関心を持って学ぶことができる。【態度・志向性】						
授業計画	第1回 ガイダンス（時代区分ほか）（青木） 第2回 日本列島の歴史（青木） 第3回 口承文芸（青木） 第4回 地域の文化（青木） 第5回 郷土の文化（青木） 第6回 近代の散文（青木） 第7回 近代の韻文（青木） 第8回 出版文化・まとめ（青木） 第9回 干支、暦（田中） 第10回 万葉仮名、平仮名（田中） 第11回 和歌の歌体・修辞技巧（田中） 第12回 物語・語り物（田中） 第13回 能・狂言（田中） 第14回 浄瑠璃・歌舞伎（田中） 第15回 年中行事についてのレポートの発表（田中）						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業中に予め提示した事柄について調べて、レポートなどにまとめ、授業時に発表できるよう準備する。（学習時間：1時間） 授業で学んだ事柄について復習し、基礎的な事項については説明できるよう身に付ける。 また、関心のある事項については、さらに調べて探究する。（学習時間：1時間）						
授業方法	講義と演習 演習としては、調べて来たことを発表するプレゼンテーションを取り入れる。						
評価基準と評価方法	小文の執筆（40%） レポートとその発表（30%） 小テスト（20%） 授業中の発言など授業に対する姿勢（10%）						
履修上の注意	遅刻、欠席をしないこと。 レポートや小文の執筆だけでなく、小テストも実施する。 3分の2以上の出席に満たない者は単位修得の資格はないものとする。						
教科書	適宜、プリントを使用する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	日本文学と美術工芸／日本文化を学ぶA						
担当教員	田中 まき					科目ナンバ－	J72170
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	美術工芸における平安文学の享受						
授業の概要	平安時代の物語や歌集は、その時代だけでなく、連綿と読み継がれ、後世に多大な影響を与えてきた。それは文学の面だけではなく、文化全般に享受され、美術・工芸作品としても様々な作品を生み出して来た。例えば、美しい料紙に流麗な文字で書かれた『西本願寺本三十六人歌集』・『元永本古今和歌集』などの豪華な装飾本歌集や国宝『源氏物語絵巻』・『伊勢物語絵巻』などの絵巻に、王朝文化の華やかさや技術の高さを窺うことができる。 本授業では、このような平安文学の影響のもとに制作された美術・工芸品について、もとの平安文学を鑑賞するとともに、それがどのように享受されてきたか、その様相を講義する。 それらの美術・工芸品について理解しやすいように、複製を提示したり、パソコンやDVDの画像をスクリーンに映したりしながら解説する。						
到達目標	平安文学を享受した美術・工芸について理解し、説明することができる。【知識・理解】 平安文学を享受した美術・工芸の特徴を分かりやすく説明することができる。【汎用的技能】						
授業計画	第1回 平安文学とその影響を受けた美術・工芸品についての概説 第2回 屏風歌と屏風絵 第3回 『古今和歌集』の写本（高野切・元永本・伝公任筆本・唐紙卷子本など） 第4回 国宝『源氏物語絵巻』 第5回 『西本願寺本三十六人集』 第6回 歌仙絵と『佐竹本三十六人集』 第7回 古筆切と手鑑 第8回 冷泉家の至宝 第9回 『伊勢物語絵巻』（白描梵字経下絵・久保惣本など） 第10回 本阿弥光悦と嵯峨本（古活字本）の刊行 第11回 『平家納経』などの装飾経 第12回 俵屋宗達と『伊勢物語図色紙』 第13回 尾形光琳の『伊勢物語』享受（国宝『燕子花図屏風』など） 第14回 古典文学をモチーフとした調度や装束 第15回 まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	授業前準備学習：古典文学と関わりのある美術・工芸品に興味を持ち、それらが扱われた資料を読む。（1時間） 授業後学習：授業で学んだ美術・工芸品、また、それに影響を与えた古典作品について要点を確認、整理する。（1時間）						
授業方法	講義 書籍や絵巻、屏風などを書誌的に理解できるよう、ミニチュア作りにも取り組む。 平安文学の影響を受けた美術・工芸品についてディスカッションやプレゼンテーションすることにも取り組む。						
評価基準と評価方法	試験（70%） 小テスト（10%） 取り組みに対する姿勢（20%）						
履修上の注意	毎回、プリントを配布するので、遅刻、欠席をしないこと。 3分の2以上の出席がなければ、試験を受ける資格はないものとする。						
教科書	毎回、プリントを配付する。						
参考書	授業中に提示する。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文芸と公共性						
担当教員	西川 純司					科目ナンバー	A73110
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	文芸との出会いの場を考える						
授業の概要	この講義では、ミュージアムや書店、劇場などの文化施設を対象に、文芸の魅力をいかにして伝えることができるかを考える。各施設ごとに、その領域を専門とする教員が現況の解説と課題提示を行ったあと、受講生のグループが主体となって文芸との出会いの場を企画検討し、発表する。受講生は情報収集から企画の検討、プレゼンテーションまで、グループごとに協力して作業を進めることが求められる。これら課題解決型の学びを通して、これからの文芸的公共圏のありようを探ることを目指す。						
到達目標	(1) 文芸的営みの所産が現代社会のなかでもつ意味や価値を認識し、理解することができる。【知識・理解】 (2) また、それらが抱える問題を的確に把握し、他者との協働作業を通じて、解決するためのアイデアを発信することかてきる。【汎用的技能】 (3) 文芸に対する興味や関心をより具体的なものとして意識することができる。【態度・志向性】						
授業計画	1 イントロダクション 2 文芸と公共性 3 ミュージアムの企画 (1) : 課題の提示、グループ分け 4 ミュージアムの企画 (2) : グループワーク①: 情報収集、企画の検討 5 ミュージアムの企画 (3) : グループワーク②: 発表準備 6 ミュージアムの企画 (4) : プレゼンテーション、投票 7 書店の企画 (1) : 課題の提示、グループ分け 8 書店の企画 (2) : グループワーク①: 情報収集、企画の検討 9 書店の企画 (3) : グループワーク②: 発表準備 10 書店の企画 (4) : プレゼンテーション、投票 11 劇場の企画 (1) : 課題の提示、グループ分け 12 劇場の企画 (2) : グループワーク①: 情報収集、企画の検討 13 劇場の企画 (3) : グループワーク②: 発表準備 14 劇場の企画 (4) : プレゼンテーション、投票 15 まとめ						
授業外における学習(準備学習の内容・時間)	授業の前後に、授業内で指示した課題について、松蔭manabaを活用しながらグループで作業を進める。(学習時間: 3時間)						
授業方法	グループワークにもとづく課題解決型の授業を実施し、成果をプレゼンテーションのかたちで発表する。ICT技術を活用して受講生の考えや意見を取り入れるなど、双方向型の授業を実施する。松蔭manabaを利用して授業の前後学習を行う。						
評価基準と評価方法	プレゼンテーション 75% : 授業で扱ったテーマの理解度および企画内容の的確性・創造性を評価する。到達目標 (1) および (2) の到達度の確認。 授業への参加度 25% : グループワークへの積極的な参加を評価する。到達目標 (2) および (3) の到達度の確認。 プレゼンテーションに対する評価は、翌週の授業で紹介することでフィードバックする。						
履修上の注意	「文芸インターンシップ」に参加する予定の学生は、この科目を受講することが必須となる。グループワークへの積極的な参加が求められる。2/3以上の出席に満たない者は、受験資格を失う。						
教科書	毎回プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	文法の基礎知識／文法・敬語の基礎知識						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J72020
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	日本語を主対象とする文法論						
授業の概要	音声、音素、文字の関係を示したのち、言語形式に構造および単位が存在することを教授する。 更に、言語の曖昧性および多義性を解説する。						
到達目標	(1) 音声、音素、文字の関係を掴む。 (2) 言語形式に構造および単位が存在することを知る。 (3) 言語の曖昧性および多義性を知る。 (4) 学説が必ずしも定まっていないことを知る。 (5) 卒業研究の種を見附ける。						
授業計画	01: 授業概要の説明 02: 音声、音素、文字の関係 03: 「1. 字を知らないからわかること」の講読 04: 「2. 「みんな」は何文字？」の講読 05: 形態素と語との違い 06: 語、句、節の構造 07: 「3. これ食べたら死ぬ? : 子どもは一般化の名人」の講読 08: 意味論 09: 「4. ジブンデ! ミツケル!」の講読 10: 「5. ことばの意味をつきとめる」の講読 11: 語用論 12: 「6. 子どもには通用しないのだ」の講読 13: 「7. ことばについて考える力」の講読 14: 全体のまとめと試験 15: 試験解答の確認と文章添削						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 教科書熟読: 各章少なくとも2時間は要する。 (2) 論文読解: 15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 講読資料作成: 少なくとも4時間は要する。 授業は予習を前提に進めるので、上記授業計画を参照し、該当箇所を読んでおくこと。						
授業方法	講義。板書を積極的に活用する。授業内課題を毎回与え、学生から得た正答や名案を受講者全員で共有する。						
評価基準と評価方法	日々の課題: 40点 試験: 60点						
履修上の注意	特段の理由無く欠席した者に対する学習補助は一切行なわない。						
教科書	広瀬 友紀 (2017) 『ちいさい言語学者の冒険』、岩波書店						
参考書	服部 四郎 (1960) 『言語学の方法』、岩波書店 南 不二男 (1962) 「三 文法」、国語学会 (編) 『方言学概説』、pp. 209-55、武蔵野書院 南 不二男 (1974) 『現代日本語の構造』、大修館書店 上山 あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』、くろしお出版 小泉 保 (1993) 『日本語教師のための言語学入門』、大修館書店						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	黒木 邦彦					科目ナンバー	J02060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。 (1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2) で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。						
到達目標	(1) 日本語・日本文化に関する物事を文献資料やデータベースで調査・探究できる。 (2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。 (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。						
授業計画	第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使つての発表と質疑応答①：学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使つての発表と質疑応答②：人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使つての発表と質疑応答③：行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使つての発表と質疑応答①： 第13回 スライド資料を使つての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使つての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 文献読解：200頁の書籍であれば、少なくとも10時間は要する。 (2) 論文読解：15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 演習発表資料文章版作成：少なくとも4時間は要する。 (4) 演習発表資料スライド版作成：少なくとも2時間は要する。						
授業方法	講義で知識を附けたのち、課題に臨む。 回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占める。						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容：80% 授業への意欲・取り組み（質問や質疑応答の質）：20%						
履修上の注意	(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。						
教科書	石黒 圭（2012）『論文・レポートの基本』、日本実業出版社 必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりもする。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J02060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜1	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。 (1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2) で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。						
到達目標	(1) 日本語・日本文化に関する物事を文献資料やデータベースで調査・探究できる。 (2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。 (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。						
授業計画	第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使つての発表と質疑応答①：学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使つての発表と質疑応答②：人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使つての発表と質疑応答③：行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使つての発表と質疑応答①： 第13回 スライド資料を使つての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使つての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 文献読解：200頁の書籍であれば、少なくとも10時間は要する。 (2) 論文読解：15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 演習発表資料文章版作成：少なくとも4時間は要する。 (4) 演習発表資料スライド版作成：少なくとも2時間は要する。						
授業方法	講義で知識を附けたのち、課題に臨む。 回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占める。						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容：80% 授業への意欲・取り組み（質問や質疑応答の質）：20%						
履修上の注意	(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。						
教科書	石黒 圭（2012）『論文・レポートの基本』、日本実業出版社 必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりもする。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	プレゼンテーションの方法						
担当教員	田附 敏尚					科目ナンバー	J02060
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	調査・探究方法および効果的発表技法の学習						
授業の概要	文献資料やデータベースで調査・探究したことを文章にまとめ、それらを人前で効果的に発表する技法を学ぶ。 具体的には、次のような授業を展開する。 (1) 文献資料やデータベースを使って、日本語・日本文化の学術的調査を行なう。 (2) 日本語・日本文化を対象とする学術的調査とその結果とを文章化する。 (3) (2) で作成した文章を、短時間で理解できるスライドに組み替え、プレゼンテーションを行なう。						
到達目標	(1) 日本語・日本文化に関する物事を文献資料やデータベースで調査・探究できる。 (2) 調査・探求したことを文章やスライドにまとめることができる。 (3) 作成した資料を使って、聴衆に分かり易く訴え掛けることができる。						
授業計画	第01回 授業概要と目標の説明 第02回 文献資料の探し方とデータベースの使い方についての説明 第03回 課題の決定と関連事項の調査・探究 第04回 Word資料作成方法の説明 第05回 Word資料作成 第06回 Word資料を使つての発表と質疑応答①：学術的文章の体裁 第07回 Word資料を使つての発表と質疑応答②：人の興味を引く「はじめに」の書き方 第08回 Word資料を使つての発表と質疑応答③：行論および論証の方法 第09回 発表についての討議と自己評価 第10回 Powerpointによるスライド資料作成方法の説明 第11回 スライド資料作成 第12回 スライド資料を使つての発表と質疑応答①： 第13回 スライド資料を使つての発表と質疑応答② 第14回 スライド資料を使つての発表と質疑応答③ 第15回 発表についての討議と自己評価、全体のまとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	(1) 文献読解：200頁の書籍であれば、少なくとも10時間は要する。 (2) 論文読解：15頁の論文であれば、少なくとも4時間は要する。 (3) 演習発表資料文章版作成：少なくとも4時間は要する。 (4) 演習発表資料スライド版作成：少なくとも2時間は要する。						
授業方法	講義で知識を附けたのち、課題に臨む。 回によっては、パソコンを操作し、資料作成に当たる時間が授業の大半を占める。						
評価基準と評価方法	発表のために作成した資料とプレゼンテーションの内容：80% 授業への意欲・取り組み（質問や質疑応答の質）：20%						
履修上の注意	(1) 無断遅刻・欠席は厳禁。 (2) 3分の2以上出席しなければ、単位は認定されない。 (3) 授業は普通教室のほか、パソコン教室や図書館でも行なうので、事前連絡に注意。						
教科書	石黒 圭（2012）『論文・レポートの基本』、日本実業出版社 必要に応じてプリントを配付したり、manabaで提示したりもする。						
参考書	無し。						

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア・文芸入門						
担当教員	打田 素之・西川 純司					科目ナンバ	J01100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会におけるメディア現象を分析するための基礎的な知識とその方法を学ぶ。						
授業の概要	この授業は2名の教員によるオムニバスの授業です。 さまざまな文芸作品（マンガ・アニメ・小説・映画、他）を取り上げて、それらがどのような意味を持っているかを、その分析方法と共に考えていきます。また、こうした文芸作品がどのようなメディア環境のもとで作られ、伝えられ、消費されているのかについても合わせてみていくことで、日本社会におけるメディア現象に総合的にアプローチします。 前半はいろいろな文芸ジャンルの作品分析について学び、後半はそうした文芸作品が置かれているメディア環境をみていきます。						
到達目標	（１）現代日本社会におけるメディア現象について説明することができる【知識・理解】 （２）様々なメディアを分析する能力を身につける【汎用的技能】 （３）社会現象や文芸作品についてコメントすることができる【態度・志向性】						
授業計画	1. イントロダクション 【文芸入門】（担当者：打田） 2. 文芸作品と社会 3. 小説作品とその時代性 4. 映像作品とその時代性 5. アニメ作品の分析 6. マンガ作品の分析 7. 映画と演劇の関係 8. メディアと精神分析 【メディア入門】（担当者：西川） 9. メディアとは？ 10. メディアの分析 11. メディアと社会（１）：マスメディアの時代 12. メディアと社会（２）：インターネットの時代 13. メディアのネットワーク化 14. メディアのグローバル化 15. まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【文芸】授業で言及された作品（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・ＴＶ番組・ゲーム、他）にできる限り触れる（15時間以上）。 【メディア】小テストで間違えた問題を確認し、復習しておく。						
授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら質問する。理論や説を提示する場合は、それが具体的にどのような意味を持つのか、質疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	メディア、文芸、両ジャンルの成績を合算して成績を出す。内訳は以下の通り。 【文芸】 平常点（30％）＋筆記試験（20％）＝50点 【メディア】 平常点（20％）＋小テスト（30％）＝50点 平常点は、毎回の授業への参加度、発言の独自性を基準に評価する。 文芸ジャンルは8回目の授業時に筆記試験を行う。授業内容の理解を問う問題を中心に出题する。 質問、テスト結果については、授業の前後、オフィス・アワーを通してフィードバックする。						
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、原則として失格とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							

科目区分	日本語日本文化学科専門教育科目						
科目名	メディア・文芸入門						
担当教員	打田 素之・西川 純司					科目ナンバー	J01100
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	日本社会におけるメディア現象を分析するための基礎的な知識とその方法を学ぶ。						
授業の概要	この授業は2名の教員によるオムニバスの授業です。 さまざまな文芸作品（マンガ・アニメ・小説・映画、他）を取り上げて、それらがどのような意味を持っているかを、その分析方法と共に考えていきます。また、こうした文芸作品がどのようなメディア環境のもとで作られ、伝えられ、消費されているのかについても合わせてみていくことで、日本社会におけるメディア現象に総合的にアプローチします。 前半は文芸作品が置かれているメディア環境をみていきます。後半はそうした文芸ジャンルの作品分析について学びます。						
到達目標	（１）現代日本社会におけるメディア現象について説明することができる【知識・理解】 （２）様々なメディアを分析する能力を身につける【汎用的技能】 （３）社会現象や文芸作品についてコメントすることができる【態度・志向性】						
授業計画	1. イントロダクション 【メディア入門】（担当者：西川） 2. メディアとは？ 3. メディアの分析 4. メディアと社会（１）：マスメディアの時代 5. メディアと社会（２）：インターネットの時代 6. メディアのネットワーク化 7. メディアのグローバル化 8. まとめ 【文芸入門】（担当者：打田） 9. 文芸作品と社会 10. 小説作品とその時代性 11. 映像作品とその時代性 12. アニメ作品の分析 13. マンガ作品の分析 14. 映画と演劇の関係 15. メディアと精神分析						
授業外における学習（準備学習の内容・時間）	【文芸】授業で言及された作品（小説・演劇・映画・アニメ・漫画・ＴＶ番組・ゲーム、他）にできる限り触れる（15時間以上）。 【メディア】小テストで間違えた問題を確認し、復習しておく。						
授業方法	講義：毎回、テーマに沿った概説を行った後、理解度と知識を問う質問を行う、あるいは、概説と並行しながら質問する。理論や説を提示する場合は、それが具体的にどのような意味を持つのか、質疑応答形式で授業を進める。						
評価基準と評価方法	メディア、文芸、両ジャンルの成績を合算して成績を出す。内訳は以下の通り。 【文芸】 平常点（３０％）＋筆記試験（２０％）＝５０点 【メディア】 平常点（２０％）＋小テスト（３０％）＝５０点 平常点は、毎回の授業への参加度、発言の独自性を基準に評価する。 文芸ジャンルは15回目の授業時に筆記試験を行う。授業内容の理解を問う問題を中心に出题する。 質問、テスト結果については、授業の前後、オフィス・アワーを通してフィードバックする。						
履修上の注意	1/3以上欠席した者は、原則として失格とする。						
教科書	プリントを配布する。						
参考書							